



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ブラキストン製作の標本ケースについて
Author(s)	加藤, 克
Citation	北大植物園研究紀要, 15, 29-54
Issue Date	2015-12-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60528
Type	departmental bulletin paper
File Information	BBG15_002.pdf



ブラキストン製作の標本ケースについて

加藤 克ⁱ

はじめに - 関心の所在 -

トーマス・ライト・ブラキストン (Thomas Wright Blakiston, 1832 - 1891) は、明治前後の日本、特に北海道において鳥類を数多く採集し、近代的な生物学的観点に基づく日本産鳥類目録を刊行するとともに、その成果の一部として津軽海峡に動物分布の地理的境界があることを見出したことで知られる。筆者らは、ブラキストンが日本に残した標本、またその標本を管理する際に用いていたノート類について考察するとともに、ブラキストンが函館の博物館に標本を寄贈した後、現在の所蔵機関である北海道大学植物園・博物館⁽¹⁾に保管されるようになった経緯について検討を続けてきた (加藤 2012 など)。本稿はこれらの論考の一部として、ブラキストンが標本を寄贈する際に製作させたといわれる標本ケースについて紹介、考察するものである。今回紹介する標本ケースは、所蔵する博物館ではブラキストンが製作したものという情報が継承されているが、その根拠となる史料が所蔵されているわけではない。また、ブラキストンが採集した鳥類標本群は学術標本として様々な形で研究に利用されてきたが、それらを保護する役割に過ぎないケースについて触れられることはほとんどなかった。しかし、ブラキストンによって製作されたといわれるケースがどのようなものであるのかを把握することは、北海道の博物館史やブラキストンの人物史を考察する上で重要であろうし、ケースの製作年代が明らかになることで、技術史の変遷を示す材料になることが期待される。

まず、考察対象となる標本ケースについて触れられている文献を整理しておく。彌永は、標本の保存状況を示すことを目的に収蔵庫内部の写真を用いて、保管環境が「蝦夷松材で作られた引出しが十五から四十杯もある大きな箱五個」であることを述べている (彌永 1979)。これはブラキストンの標本ケースが紹介された事例として、特に博物館外部の研究者が触れた例としては初のものである。ただし、そのケースの歴史的経緯などについては触れていない。ブラキストンが標本箱を製作したという史実に関する史料を紹介したのは北島 (1985) である。北島の関心が、ブラキストンから函館博物館に標本が寄贈された時期とその点数にあったため詳しくは言及していないものの、引用した 1879 (明治 12) 年 5 月付の開拓使函館書記官から東京出張所に宛てた報告に「当港在留トマス・ブレッキストン并福士成豊兩人ニ而蒐集セン鳥類剥製当俵博物館へ寄贈之義曾テ西村殿ヨリ御談示以降再応ブレッキストンへ相促候処、別紙甲乙之通り申越シ且ツ剥製陳列箱ノ体裁モ惣テ同氏ノ所見ニ基キ製作ヲ遂ゲ、本月廿日ヨリ廿二日迄則三日間ニ而悉皆授受 (下線引用者)⁽²⁾」という記述がある。この「陳列箱」が、標本を保管するためのケースであるのか否かについては検討の余地はあるものの、標本寄贈にあたってブラキストンの指示に基づいて「陳列箱」が製作されたことは間違いない。北海道の博物館の歴史をまとめた関ら (1990) もこの史料を用いて標本寄贈の経緯について報告をしている。

管見の限り、ブラキストンの標本ケースについて言及している先行研究は以上である。史料にみるように、ブラキストンが「陳列箱」を作らせたことは間違いない。しかし、北大植物園・博物館に現存する標本ケースがこの「陳列箱」に該当するものであるかは明らかではないし、仮に「陳列箱」であったとしても、そのすべてが現存しているのか、またそのまま残されているのかについては不明である。次章以降において、標本ケースの現状に関する調査結果を報告し、現存するケースがブラキストンが製作させた「陳列箱」であるのかについて検討することとしたい。

1. 標本ケースの現状

1-1. 標本ケース概観

考察の対象となる標本ケースは、北大植物園・博物館の収蔵庫でブラキストン標本を保存・管理するために運用されてきた 5 台のケースである。まずは、ケースの現状について紹介することとしたい。

博物館では標本の所蔵管理を目的として、各標本ケース、箱類に番号を与えてきた。ブラキストン標本の管理に

ⁱ北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

用いられてきた検討対象の標本ケースにも一連の番号が付与されており、7号から11号ケースとして利用されてきた。5台のケースを構成する引出しの数やサイズが異なるため、ケース自体の外寸には微妙な差異はあるものの、おおむね幅143cm、高さ170cm、奥行き70cmほどである(写真1)。彌永(1979)はこれらのケースをエゾマツ製と述べているが、7号ケースの背面には北大植物園・博物館の関係者によるものと推測される「クロビイタヤ」製という記述がある。クロビイタヤであるかどうかは疑問が残るが、マツ材ではなくカエデ類が素材になっているものと思われる。製作にあたっては和釘が利用されており、古い時代のケースであることに疑いはない。

ケースには標本を収納する引出しが設置されているが、塵芥や標本を傷める虫の侵入を遮るための外板がケース前面に設置できるようになっている。現在はベニヤ板製の外板が用いられており、左右のストッパーで固定されているが、各ケースの上下には外板を止めるための受け(写真2)が確認されることから、ベニヤ板製の外板が後世に改変されたものであることは確実である。

引出しには、様々なシールや注記が付属している。詳細については後述するが、7号から11号ケースの引出し番号を示すシール、引出しの中に保管されている種を記した白墨による注記など、北大植物園・博物館で付与、付記された記述も多い。

1-2. 各ケース引出しの構成

各ケースはそれぞれ引出しの数やサイズが異なっている。7号は58本、8号は31本、9号は11本、10号および11号は12本であり、図1に現在の引出し番号とともに配列を示した。この配列が博物館において長く用いられてきたものであるが、各引出しを取り出し、引出しの内部、外部の記述やケースの内側を確認したところ、いずれかの時点で引出しが入れ替わっていることが判明した。この点について整理しておきたい。

写真3は引出しを抜き出したケース内面の記載であり、写真4は引出しの外側面にある記載である。7号ケースは「ろ」、8号ケースは「は」、9号ケースは「に」、10号ケースは「ほ」、11号ケースは「い」という名称が与えられており、7号ケースの上部では「ろ右(左)一」、下部では「ろ下右(中、左)一」、8号下部では「は右(中、左)一」という形で細分されている。標本ケース製作時にケースと引出しとの対応関係を示すために記されたこれらの記述に基づいて、それぞれの引出しが本来納められていた場所へ戻した場合の配列を図2に示した。ケースの上部や引出しの一部には、収められている標本の目レベルの大きな分類が記されたラベルが貼り付けられているが、この分類方法を利用するためには図2に示したような、もともとの配列を念頭に置いて検討を行う必要がある。以下の考察においては、引出し配列の原型であると考えられるケース内の引出し表記を用いるが、数字のみアラビア数字に変換し、かつ桁数をそろえるために一桁のケース番号については「0」を加えて表記することにする。

以上がブラキストン製作といわれてきた標本ケースの現状である。次章において、このケースに付属するラベル類の情報を整理し、ケースの製作者、製作年代について考察を続けたい。



写真1. ブラキストン製作とされる標本ケース（7号）



写真2. 11号ケース下部の外扉受け

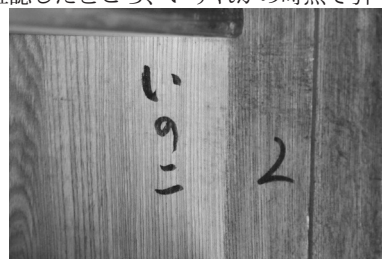


写真3. 引出しを抜いたケースの内側の記載



写真4. 11-02 引出しの外側面の記載

7号ケース 【PASSERES】		
07-17	07-09	07-01
07-18	【SCANSORES】 07-10	07-02
07-19	07-11	07-03
07-20	07-12	07-04
07-21	07-13	07-05
07-22	07-14	07-06
07-23	07-15	07-07
07-24	07-16	07-08
07-27		07-25
07-28		07-26
07-49	07-39	07-29
07-50	07-40	07-30
07-51	07-41	07-31
07-52	【COLUMBAE】 07-42	07-32
07-53	07-43	07-33
07-54	07-44	07-34
07-55	07-45	07-35
07-56	07-46	07-36
07-57	07-47	07-37
07-58	07-48	07-38

8号ケース 【GRALIAE】		
08-01		
08-02		
08-03		
08-04	08-13	08-22
08-05	08-14	08-23
08-06	08-15	08-24
08-07	08-16	08-25
08-08	08-17	08-26
08-09	08-18	08-27
08-10	08-19	08-28
08-11	08-20	08-29
08-12	08-21	08-30
08-31		

9号ケース 【NAVATORES】		
09-01		
09-02		
09-03		
09-04		
09-05		
09-06		
09-07		
09-08		
09-09		
09-10		
09-11		

10号ケース 【ACCIPITRES】		
10-01		
10-02		
10-03		
10-04		
10-05		
10-06		
10-07		
10-08		
10-09		
10-10		
10-11		
10-12		

11号ケース 【ANSERES】		
11-01		
11-02		
11-03		
11-04		
11-05		
11-06		
11-07		
11-09		11-08
11-10		
11-12		11-11

図1. 標本ケース引出しの現状

数字は博物館で利用されていた引出し番号である。ケース上部の【 】で括った記載は、ケースに付属する分類ラベルである。一部引出しにも貼られているものは、引出しの枠内に記載した。

7 号ケース 【PASSERES】		
ろ左一 07-02*	ろ中一【COLUMBAE】 07-42*	ろ右一 07-01
ろ左二 07-16*	ろ中二【SCANSORES】 07-10	ろ右二 07-29*
ろ左三 07-15*	ろ中三 07-40*	ろ右三 07-03
ろ左四 07-13*	ろ中四 07-12	ろ右四 07-04
ろ左五 07-14*	ろ中五 07-30*	ろ右五 07-05
ろ左六 07-35*	ろ中六 07-23*	ろ右六 07-06
ろ左七 07-31*	ろ中七 07-11*	ろ右七 07-07
ろ左八 07-24	ろ中八 07-33*	ろ右八 07-08
ろ左十一 07-27		ろ右九 07-25
ろ左十二 07-28		ろ右十 07-26
ろ下左三十三 07-53*	ろ下中二十三 7-18*	ろ下右十三 07-52*
ろ下左三十四 07-55*	ろ下中二十四 07-20*	ろ下右十四 07-41*
ろ下左三十五 07-34*	ろ下中二十五 07-19*	ろ下右十五 07-36*
ろ下左三十六 07-49*	ろ下中二十六 07-17*	ろ下右十六 07-43*
ろ下左三十七 07-32*	ろ下中二十七 07-09*	ろ下右十七 07-33
ろ下左三十八 07-50*	ろ下中二十八 07-54*	ろ下右十八 07-56*
ろ下左三十九 07-22*	ろ下中二十九 07-46*	ろ下右十九 07-51*
ろ下左四十 07-21*	ろ下中三十 07-44*	ろ下右二十 07-45*
ろ下左四十一 07-57	ろ下中三十一 07-38*	ろ下右二十一 07-37
ろ下左四十二 07-58	ろ下中三十二 07-48	ろ下右二十二 07-47*

10 号ケース 【ACCIPITRES】
ほ一 10-01
ほ二 10-02
ほ三 10-03
ほ四 10-04
ほ五 10-05
ほ六 10-06
ほ七 10-07
ほ八 10-08
ほ九 10-09
ほ十 10-10
ほ十一 10-11
<記載なし> 10-12

8 号ケース 【GRALLIAE】		
は一 08-01		
は二 08-02		
は三 08-03		
は左一 08-04	は中一 08-05*	は右一 08-13*
は左二 08-23*	は中二 08-14	は右二 08-29*
は左三 08-06	は中三 08-15	は右三 08-27*
は左四 08-07	は中四 08-16	は右四 08-22*
は左五 08-08	は中五 08-21*	は右五 08-24*
は左六 08-09	は中六 08-20*	は右六 08-25*
は左七 08-10	は中七 08-18*	は右七 08-26*
は左八 08-11	は中八 08-19*	は右八 08-30*
は左九 08-12	は中九 08-17*	は右九 08-28*
は下【GALLINAE】 08-31		

9 号ケース 【NAVATORES】
に一 09-01
に二 09-02
に三 09-03
に四 09-04
に五 09-05
に六 09-06
に七 09-07
に八 09-08
に九 09-09
に十 09-10
に十一 09-11

11 号ケース 【ANSERES】	
い一 11-01	
い二 11-02	
い三 11-03	
い四 11-04	
い五 11-05	
い六 11-06	
い七 11-07	
い左九 11-08*	い右八 11-09*
い十 11-10	
い左十二 11-11*	い右十一 11-12*

図 2. 標本ケース引出し内部記載に基づいた引出しの原型

ケース内部の記載と引出し外側面の記載を各引出しの欄に記載している。「*」を付した引出しは、現在の配置において原型と異なる場所に入れているものである。

2. 引出しに付属する情報

2-1. 和名ラベルの由来

ブラキストン製作といわれる標本ケースそのものには製作年代などの情報は記載されておらず、その由来を考察するためには、ケースに付属する様々な情報を総合的に考察する必要がある。ここでは、ケースに付属するラベルに着目することとした。

標本ケースには、様々なラベルや記載がある。北大植物園・博物館における標本ケース番号を示す「7-1」というラベル(写真1)、博物館が収集したブラキストン標本以外の標本が収納されていた時期に付与されたと考えられる「台湾」や「道内」といったラベル(写真5)、ケース内に保管されている標本種を示す白墨による記載は、博物館における標本管理に利用していたものであって、ケースの由来を把握する材料とはならない。古い時代から付属していたとみられるラベルは、以下に示す4種類である。

- (1) 10号ケースの「ACCIPITRES」や8号ケースの「GRALIAE」などの目レベルの分類を示すラベル(写真6、図2参照)
- (2) 各引出しに貼られている学名が記載されたラベル(写真7上、以下学名ラベル)
- (3) 学名ラベルの下、脇に貼られた番号と和名などが記載されたラベル(写真7下、以下和名ラベル)
- (4) 各引出しの内側に貼られた「十七年八月拾四羽」といった記載のある付箋(写真8)

これらのラベルの記載を表1にまとめた。



写真5. 「台湾」のラベル



写真6. 分類ラベル



写真8. 標本点数を示す付箋



写真7. 学名ラベル(上)、和名ラベル(下)

まず、学名ラベルと和名ラベルの関係について確認しておく。ほとんどのラベルは重なり合うことはないが、「ろ下右 18」引出しのシジュウカラ (1-219) の和名ラベルはわずかであるものの学名ラベルの上に貼り付けられている。この前後関係から学名ラベルの方が古いものであることがわかる。また表 1 からわかるように、ラベルの学名と和名とは 1-215 および 1-216 のキセキレイを除いて判読できるものについては対応しており、両者は関連しているものであるが、1-094 のように学名ラベルに対応する和名ラベルが確認できない事例があることが特徴といえる。

この 2 種類のラベルの由来を示すものは、和名ラベルに記載されている番号である。和名ラベルの番号は重複することなく記載されており、和名と対応する種番号とみなされる。そして、この種番号は、ブラキストンとプライヤー (Henry J. Pryer 1850-1888) が著した「Catalogue of the Birds of Japan」(Blakiston & Pryer 1880、以下「BJ1880」と表記) における日本産鳥類の種番号と合致するのである⁽³⁾。また、表 1 に示したように、和名ラベルには「和名」と表記した上で和名が記されている場合と、「洋名」と表記した上で学名、記載者名、場合によっては英名がカタカナで記されている場合 (写真 9) とがある。これは、「BJ1880」において和名が記されている種 (表 1 の「BJ 和名」欄において「i」としたもの) と和名表記がない種 (「ii」としたもの) とがあり、この相違と和名ラベルの「和名」と「洋名」の使い分けが対応しているのである。この点からみても、和名ラベルが「BJ1880」を基に記されたものであることは明らかである。

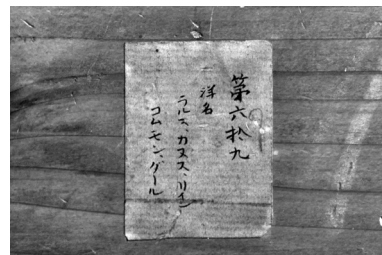


写真 9. 和名ラベルの「洋名」記載

なお、和名ラベルが「BJ1880」の記載和訳と対応していることから、言及しておくべき資料がある。現在函館市中央図書館に所蔵されている「大日本禽鳥集⁽⁴⁾」は、1884 (明治 17) 年 3 月に函館県在勤の野口源之助が「BJ1880」を翻訳したものである (加藤 2012)。「大日本禽鳥集」にはブラキストン標本を管理していた函館博物場の資料を開拓使の廃止後に管理していた函館中学校の蔵書印があり、末尾には「HAKODATE MUSEUM」という朱書きのある「Birds of Japan」(Blakiston & Pryer 1882、以下「BJ1882」) の表紙が付属していることから、函館博物場との関連が深い資料と考えられる。また、野口による緒言には「編纂家ノ主意ニ基キ勉メテ解シ易カラントヲ欲シ、普通ノ文字ニテ譯述セシ」という記述があることから、ブラキストンが標本を寄贈するにあたって、博物場の職員による標本管理が適切に行えるように配慮されたものであることがうかがわれる。これらの点から、ケースに付属する和名ラベルの由来を考察する上で「大日本禽鳥集」が利用された可能性を検討する必要がある。

従来、「大日本禽鳥集」についてはその内容が精査されることなく、野口が「BJ1880」をそのまま翻訳したものと考えられてきた (北島 1985、加藤 2012)。しかし、野口の翻訳になる「大日本禽鳥集」は、ブラキストンが「BJ1880」で和名を記さなかった種番号 079「*Fulmarus pacificus*」に「フルマカモメ」、種番号 081「*Procellaria furcata*」に「ハイロウミツバメ」という名称を与えている例が確認される。また、種番号 057「*Phalacrocorax carbo*」は「BJ1880」において「U」と記され、対応する和名ラベルでも「ウ」という名称が与えられているにもかかわらず「大日本禽鳥集」ではウミウの古名である「シマツ」が和名として記載されているように、純粋な翻訳ではなく野口の独自性をみることができる。また、和名ラベルの学名の記述方法は、1-002 を例にとるならば、和名ラベルの「ファレリス・ミステンシヤ・ポール一名ピー・カムツカチキユース・レペチン」に対して、「大日本禽鳥集」は「ファレリス、マイスタセア、パル (ピ、カムチャチクス)、レペチン」とあるように、合致しない事例が散見される。以上の点から、ケースの和名ラベルは「大日本禽鳥集」とは関係なく、「BJ1880」に基づいて作成されたものであるとみなされる。

2-2. 学名ラベルの由来

和名ラベルの特徴として、一部の学名ラベルの脇に付属していないという例が 1-094 のように相当数確認されることが挙げられるが、これは対応する学名ラベルの記載によっているものと考えられる。本節では、学名ラベルの記載を確認しつつ、和名ラベルとの対応関係について考察を進める。

前節で見たように、学名ラベルと和名ラベルとは対応している。しかしながら、学名ラベルの記載は必ずしも「BJ1880」に合致するわけではない。学名ラベルに「BJ1880」と異なる学名が記載されているのは、表 1 における「学名変遷」欄に「b」としたものと、「d」としたものである。まず「b」に区分したものを確認しておく。

1-004: *Brachyrhamphus antiquus* (Gm.) (各項目の名称は学名ラベルの記載である)

対応する和名ラベルに種番号「8」があるように、「BJ1880」の種番号 008「*Brachyrhamphus antiquus*」ウミスズメに該当する学名である。しかしながら、ラベルの種小名は「antiquus」と「u」が二つ記載されている。これはブラ

表1 標本ケース付属の学名ラベル・和名ラベルの状況と「BJ」記載の比較

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BJ和名	BJ1880和名	1880 種番号	学名変遷	BJ1878学名	BJ1880学名
001				Phaleris cristatella (Pall.)	004	エトロフウミスミメ	i	Itorofu uni-suzume	004	c	-	Phaleris cristatella, Pall.
002				Phaleris camischaticus (Lepechin)	005	フアレリス・ミステンシヤ・ポール・ 一名ビー・カムツカチキユース・レベ チン	ii	-	005	c	Phaleris mystacea (Pall.)	Phaleris cristatella, Pall. =P. Camischaticus, Lepechin.
003	に 01	09-01	25	Brachyrhamphus uni-suzume (Temmm.)	007	ブラチラムプス・ウミスミメ・テム	ii	-	007	c	Brachyrhamphus unisuzume, Temm.	Brachyrhamphus unisuzume, Temm.
004				Brachyrhamphus antiquus (Gm.)	008	ウミスミメ	i	Umi-suzume	008	b	Brachyrhamphus antiquus, Gm.	Brachyrhamphus antiquus, Gm.
005				Brachyrhamphus kittlizi (Brandt.)	009	ブラチラムプス・キットリッジ・ブラ ント	ii	-	009	a	Brachyrhamphus kittlizi, Brandt.	Brachyrhamphus kittlizi, Brandt.
006				Ceratorhyncha monocerata (Pall.)	013	ウトウ	i	Ufou	013	a	Ceratorhyncha monocerata, Pall.	Ceratorhyncha monocerata, Pall.
007				Mergulus alle [抹消]	-	[なし]	-	-	006	d	Mergulus, sp.	Phaleris pusilla, Pall.
008				Mormon cirrhatus (Gm.)	002	エトヒリカ	i	Yetopirika	002	a	Mormon cirrhatus (Gm.)	Mormon cirrhatus (Gm.)
009				Mormon corniculatus ■■■	-	[破壊]	-	-	003	c	Mormon corniculatus, Naum.	Mormon corniculatus, Naum.
010	に 02	09-02	14	Uria carbo (Pall.)	010	ケイマフリ	i	Keima-furi	010	a	Uria carbo, Pall.	Uria carbo, Pall.
011				Uria troile (L.)	011	ウミガラス	i	Umigarasu	011	a	Uria troile, L.	Uria troile, L.
012				Uria brunichi (Sab.)	012	ウガモ	ii	Ugamo	012	a	Uria brunichi, Sab.	Uria brunichi, Sab.
013				Diomedea derogata (Swinhoe)	076	クロアホウドリ	i	Kuro-ahodori	076	a	Diomedea derogata, Swinhoe	Diomedea derogata, Swinhoe
014	に 03	09-03	5	Diomedea brachyura (Temmm.)	077	アホウドリ	i	Ahodori	077	a	Diomedea brachyura (Temmm.)	Diomedea brachyura, Temm.
015				Fulmarus pacificus (Lawr.)	079	フルマルス・バシフスク・ラウレンス・ ビー・バシヒク・アウド・バシフイク・ フルマル	ii	-	079	c	Fulmarus pacificus, Lawrence = P. pacificus, Aud.	Fulmarus pacificus, Lawrence = P. pacificus, Aud.
016	に 04	09-04	5	Procellaria leucorhoa (Vieill.)	080	ウミツツバメ	i	Umi-tsutame	080	a	Procellaria leucorhoa, Vieill.	Procellaria leucorhoa, Vieill.
017				Procellaria fureata (Gould)	081	プロセルラリス・フルカタ・ソウルド・ キルクテイルド・ベトレ	ii	-	081	a	Procellaria fureata, Gould	Procellaria fureata, Gould [ママ]
018				■■■■	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
019				■■■■	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
020	に 05	09-05	9	Sterna longipennis (Nordm.)	063	ステルナ・ロンギペンニス・ノルム	ii	-	063	c	Sterna, sp.	Sterna longipennis, Nordm.
021				Chroicocephalus ridibundus (L.)	073	[アラビア数字のみ]	i	Yuri-kanom	073	b	Chroicocephalus ridibundus (L.)	Larus ridibundus, L.
022	に 06	09-06	2	Larus glaucescens (Brandt)	067	[アラビア数字のみ]	i	O-washi-kanome	067	b	Larus glaucescens, Brandt.	Larus glaucescens, Licht.
023				Larus canus (L.)	069	洋名：ラルス・カヌス・リイン・コム モン・ガール	ii	-	069	c	Larus canus, Linn.	Larus canus, Linn.
024				Larus marinus (L.)	070	オ、セダロカモメ	i	O-seguro-kanome	070	a	Larus marinus, L.	Larus marinus, L.
025	に 07	09-07	3	Larus tridactylus (L.)	-	[アラビア数字 67 抹消ラベル、学名ラ ベル「71」記載有]	-	-	074	b	Larus tridactylus, L.	Rissa tridactyla, L.
026				Larus [ママ]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
027				Larus crassirostris (Vieill.)	065	[アラビア数字のみ]	i	Umeneko	065	a	Larus crassirostris, Vieill.	Larus crassirostris, Vieill.
028	に 08	09-08	9	Larus glaucus (L.)	066	[アラビア数字のみ]	i	Shiro-kanome	066	b	Larus glaucus, L.	Larus glaucus, Fabr. [ママ]
029	に 09	09-10	7	Phalacrocorax carbo (L.)	057	ウ	i	U	057	a	Phalacrocorax carbo (L.)	Phalacrocorax carbo, L.
030				■■■■ pelagicus (Pall.)	058	ウガラス	i	U-garasu	058	a	Phalacrocorax pelagicus, Pall.	Phalacrocorax pelagicus, Pall.
031				Fuligula mariloides (Vigors.)	044	洋名：フリガラ・マリロイデス・ザイ ゴルス・レサースカワブ	ii	-	044	a	Fuligula mariloides, Vigors.	Fuligula mariloides, Vigors.
032				Fuligula cristata (L.)	045	キンクロハジロガモ	i	Kinkrohajiro-gamo	045	a	Fuligula cristata (L.)	Fuligula cristata, L.
033				Fuligula ferina (L.)	046	ホシハジロ	i	Hoshihajiro	046	a	Fuligula ferina (L.)	Fuligula ferina, L.
034	に 10	09-09	20	Nyroca ferruginea (Gm.)	047	シノリガモ *1	i	Akahajiro	047	c	Fuligula nyroca (Gm.)	Nyroca ferruginea, Gm.
035				Harelda glacialis (L.)	050	洋名：ハレルダ・グラシアース・エル・ ロンガ・テイルド・ダツク	ii	-	050	a	Harelda glacialis (L.)	Harelda glacialis, L.
036				Somateria dispar (Sparrr.)	051	洋名：ソマテリア・デスパー・スパーリン・ ステラース・ウエステルン・ダツク	ii	-	051	a	Somateria dispar (Sparrr.)	Somateria dispar, Sparrr. [ママ]
037				Fuligula marila (L.)	-	[なし]	i	Nakhashiro-gamo	043	a	Fuligula marila (L.)	Fuligula marila, L.

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BI 和名	BI1880 和名	1880 種番号	学名変遷	BI1878 学名	BI1880 学名
038				<i>Clangula histronica</i> (L.)	048	[アラビア数字のみ]	i	Shinoi-gamo	048	a	<i>Clangula histronica</i> (L.)	<i>Clangula histronica</i> , L.
039	い11	09-11	17	<i>Clangula glaucion</i> (L.)	049	■■■■	i	Hojiro-gamo	049	a	<i>Clangula glaucion</i> (L.)	<i>Clangula glaucion</i> , L.
040				<i>Oedemia fusca</i> (L.)	052	クロドリ	i	Kuro-tori	052	a	<i>Oedemia fusca</i> (L.)	<i>Oedemia fusca</i> , L.
041				<i>Oedemia americana</i> (Rich.)	053	クロガモ	i	Kuro-gamo	053	a	<i>Oedemia americana</i> (Rich.)	<i>Oedemia americana</i> , Rich.
042				<i>Aix galericulata</i> (L.)	032	オシドリ	i	Oshi-dori	032	a	<i>Aix galericulata</i> (L.)	<i>Aix galericulata</i> , L.
043	い01	11-01	14	<i>Eunetta falcata</i> (Pall.)	039	ヨシガモ	i	Yoshi-gamo	039	d	<i>Querquedula falcata</i> (Pall.)	<i>Querquedula falcata</i> , Pall.
044				<i>Eunetta formosa</i> (Georgi)	040	アジ	i	Azhi	040	d	<i>Querquedula formosa</i> (Georgi.)	<i>Querquedula formosa</i> , Georgi.
045				<i>Mareca penelope</i> (L.)	035	ヒドリ	i	Hidori	035	a	<i>Mareca penelope</i> (L.)	<i>Mareca penelope</i> , L.
046	い02	11-02	16	<i>Querquedula crecca</i> (L.)	037	コガモ	i	Ko-gamo	037	a	<i>Querquedula crecca</i> (L.)	<i>Querquedula crecca</i> , L.
047				<i>Querquedula circia</i> (L.)	038	シマハシ	i	Shima-hashi	038	a	<i>Querquedula circia</i> (L.)	<i>Querquedula circia</i> , L.
048				<i>Anas zonorhyncha</i> (Swinh.)	031	カリガモ	i	Kari-gamo	031	a	<i>Anas zonorhyncha</i> , Swinh.	<i>Anas zonorhyncha</i> , Swinh.
049	い03	11-03	8	<i> Dafila acuta</i> (L.)	036	ヲナガガモ	i	Wo-naga-gamo	036	a	<i>Dafila acuta</i> (L.)	<i>Dafila acuta</i> , L.
050				<i>Anas boschas</i> (L.)	030	■■■■	i	Ma-gamo	030	a	<i>Anas boschas</i> , L.	<i>Anas boschas</i> , L.
051				<i>Tadorna cornuta</i> (Gmel.)	034	ツクシガモ	i	Tsukushi-gamo	034	a	<i>Tadorna cornuta</i> (Gmel.)	<i>Tadorna cornuta</i> , Gmel.
052	い04	11-04	14	<i>Spatula clypeata</i> (L.)	041	ハシ■■■■	i	Hashibiro-gamo	041	a	<i>Spatula clypeata</i> (L.)	<i>Spatula clypeata</i> , L.
053				<i>Chauliasmus streperus</i> (L.)	042	オカヨシ	i	Okayoshi	042	a	<i>Chauliasmus streperus</i> (L.)	<i>Chauliasmus streperus</i> , L.
054				<i>Anser albifrons</i> (Gm.)	024	カリガン	i	Karigane	024	a	<i>Anser albifrons</i> , Gm.	<i>Anser albifrons</i> , Gm.
055	い05	11-05	10 (内首2)	<i>Anser erythropus</i> (Linn.)	025	コカリガン	i	Ko-karigane	025	a	<i>Anser erythropus</i> , Linn.?	<i>Anser erythropus</i> , Linn.
056				<i>Bernicla leucoparia</i> (Brandt)	028	シジフカラガン	i	Shi-zhi-fu-kara-gan	028	a	<i>Bernicla leucoparia</i> , Brandt.	<i>Bernicla leucoparia</i> , Brandt.
057				<i>Bernicla torquata</i> (Jenyns)	029	コクガン	i	Koku-gan	029	a	<i>Bernicla torquata</i> , Jenyns	<i>Bernicla torquata</i> , Jenyns
058				<i>Anser segutum</i> (Gm.)	022	ヒシクヒ	i	Hishikui	022	a	<i>Anser segutum</i> , Gm.	<i>Anser segutum</i> , Gm.
059	い06	11-06	7	<i>Anser brachyrynchus</i> (T.)	023	マガン	i	Ma-gan	023	a	<i>Anser brachyrynchus</i> , T.	<i>Anser brachyrynchus</i> , T.
060				<i>Anser hyperboreus</i> (Pall.)	027	ハクガン	i	Haku-gan	027	a	<i>Anser hyperboreus</i> , Pall.	<i>Anser hyperboreus</i> , Pall.
061	い07	11-07	破損	<i>Cygnus musicus</i> (Bechst.)	020	オハハクチャウ	i	Oho-haku-teu	020	a	<i>Cygnus musicus</i> , Bechst	<i>Cygnus musicus</i> , Bechst
062	い左09	11-08	破損	<i>Mergellus albellus</i> (L.)	054	ミコアイサ	i	Miko-aisa	054	b	<i>Mergellus albellus</i> (L.)	<i>Mergellus albellus</i> , L.
063				■■■■ castor (L.)	055	カワアイサ	i	Kawa-aisa	055	a	<i>Mergus castor</i> (L.)	<i>Mergus castor</i> , L.
064	い右08	11-09	6	<i>Mergus serror</i> (L.)	056	ウミアイサ	i	Umi-aisa	056	a	<i>Mergus serrator</i> (L.)	<i>Mergus serrator</i> , L.
065	い10	11-10	7 (首1・足1)	<i>Colymbus arcticus</i> (L.)	018	オハハム	i	Oho-hamu	018	c	<i>Colymbus arcticus</i> , Linn.	<i>Colymbus arcticus</i> , Linn.
066				<i>Colymbus septentrionalis</i> (L.)	019	アビ	i	Abi	019	a	<i>Colymbus septentrionalis</i> , L.	<i>Colymbus septentrionalis</i> , L.
067				■■■■ (Gm.)	014	洋名：ボテシープス・■■■ スクラブ ■■■	ii	-	014	a	<i>Podiceps cornutus</i> , Gm.	<i>Podiceps cornutus</i> , Gm.
068	い左12	11-11	3	<i>Podiceps cristatus</i> (L.)	015	洋名：ボテシープス・コル■■■・グレー ト・クレステッド・グループ	ii	-	015	a	<i>Podiceps cristatus</i> , L.	<i>Podiceps cristatus</i> , L.
069				[欠]	016	カイツムリ	i	Kaitsumuri	016	a	<i>Podiceps philippensis</i> , Bonn.	<i>Podiceps philippensis</i> , Bonn.
070	い右11	11-12	7	<i>Podiceps auritus</i> (Lath.)	017	ハ■■コイツム	i	Hajiro-kaitsumuri	017	a	<i>Podiceps auritus</i> , Lath.	<i>Podiceps auritus</i> , Lath. = nigricollis, Gmel.
071				<i>Rallus indicus</i> (Blyth.)	146	クヒナ	i	Kuhina	146	a	<i>Rallus indicus</i> , Blyth.	<i>Rallus indicus</i> , Blyth.
072				<i>Porzana erythrorhox</i> (T. & S.)	147	ヒクヒナ	i	Hi-kuhina	147	a	<i>Porzana erythrorhox</i> , T. & S.	<i>Porzana erythrorhox</i> , T. & S.
073	は01	08-01	25 (26に修正)	■■■■ [別ラベル下]	148	ヒメクヒナ	i	Hime-kuhina	148	a	<i>Porzana pygmaea</i> , Naum.	<i>Porzana pygmaea</i> , Naum.
074				<i>Porzana exqu Coast</i> (Swinh.)	149	シマクヒナ	i	Shima-kuhina	149	a	<i>Porzana exqu Coast</i> , Swinh.	<i>Porzana exqu Coast</i> , Swinh.
075				<i>Gallinula chloropus</i> (L.)	150	バン	i	Ban	150	a	<i>Gallinula chloropus</i> , L.	<i>Gallinula chloropus</i> , L.
076				<i>Nycticorax griseus</i> (L.)	128	セグロゴイ	i	Seguro-goi	128	a	<i>Nycticorax griseus</i> (Linn.)	<i>Nycticorax griseus</i> , Linn.
077				■■■■	129	ミンゴイ	i	Miso-goi	129	a	<i>Gosachius melanophus</i> (Raffles)	<i>Gosachius melanophus</i> , Raffles
078				<i>Botaurus stellaris</i> (L.)	130	サンカノゴイ	i	Sankano-goi	130	a	<i>Botaurus stellaris</i> (L.)	<i>Botaurus stellaris</i> , L.
079	は02	08-02	17	<i>Ardetta sinensis</i> (Gm.)	131	洋名：アルデッタ・シネンシス・ジー エム・チャイニス・リッテル・ピテル ン	ii	-	131	c	<i>Ardetta sinensis</i> , Gm.	<i>Ardetta sinensis</i> , Gm.
080				<i>Ardetta eurhyma</i> (Swinhoe)	132	ヨシゴイ	i	Yoshi-goi	132	a	<i>Ardetta eurhyma</i> , Swinh.	<i>Ardetta eurhyma</i> , Swinh.
081				<i>Herodias alba</i> (L.) sub sp. modesta	134	[アラビア数字のみ]	i	Oho-sagi	134	c	<i>Egretta modesta</i> , Gray	<i>Herodias modesta</i> , Gray

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BJ 和名	BJ1880 和名	1880 種番号	学名変遷	BJ1878 学名	BJ1880 学名
082				Herodias	138	洋名：ヘロデアス	ii	-	138	c	-	Herodias, ?
083				■■■■	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
084				Ibis nippon (T.&S.)	125	トキ	i	Toki	125	a	Ibis nippon, T. & S.	Ibis nippon, T. & S.
085	は 03	08-03	5 (6に修正)	Ibis propinqua (Swinh.)	126	クロトキ	i	Kuro-toki	126	a	Ibis propinqua, Swinh.	Ibis propinqua, Swinh.
086				Platalea major (T.&S.)	127	ヒラサギ	i	Hira-sagi	127	a	Platalea major, T. & S.	Platalea major, T. & S.
087				Ardea cinerea (L.)	133	アヲゴイヅ	i	Awo-sagi	133	a	Ardea cinerea, L.	Ardea cinerea, L.
088	は左 01	08-04	3	Numenius phaeopus (Lath.)	124	コシヤクシギ	i	Ko-shiyaku-shigi	124	a	Numenius phaeopus (Lath.)	Numenius phaeopus, Lath.
089	は中 01	08-05	5	Numenius australis (Gould)	123	洋名：■■■■・カリコー	ii	-	123	a	Numenius australis, Gould	Numenius australis, Gould
090	は右 01	08-13	8	Tringa acuminata (Horsf.)	106	洋名：トリンガ・アタミナタ・ホルス フ・ステント	ii	-	106	a	Tringa acuminata, Horsf.	Tringa acuminata, Horsf.
091				Tringa maculata (Vieill.)	109	洋名：■■■■マク	ii	-	109	a	Tringa maculata, Vieill.?	Tringa maculata, Vieill. (?)
092	は左 02	08-23	1	Numenius major (T.&S.)	121	オホシヤクシギ	i	Oho-shiyaku shigi	121	a	Numenius major, T. & S.	Numenius major, T. & S.
093	は中 02	08-14	10	Tringa albescent	107	ウルト・ステント	ii	-	107	a	Tringa albescent, Gould	Tringa albescent, Gould
094	は右 02	08-29	11	Tringa damaensis (Horsf.)	-	[なし]	-	-	108	b	Tringa damaensis, Horsf.	Tringa ruficollis, Pallas
095				Eurorhynchus pygmaeus (L.)	114	■■■■ [和名]	i	Hira-shigi	114	a	Eurorhynchus pygmaeus (L.)	Eurorhynchus pygmaeus, L.
096	は左 03	08-06	26	Tringa cinclus (Linn.)	105	洋名：トリンカ・シンクルス・リン	ii	-	105	a	Tringa cinclus, Linn.	Tringa cinclus, L.
097				Tringa crassirostris (T.&S.)	104	洋名：トリンガ■■■■・イビス	ii	-	104	c	Tringa tenuirostris, Horsf.	Tringa crassirostris, T. & S.
098	は中 03	08-15	8	Lobipes hyperboreus (L.)	112	洋名：ロビペス・ヒペルボリウス・レッ ドネツク	ii	-	112	a	Lobipes hyperboreus (L.)	Lobipes hyperboreus, L.
099				■■■■	113	洋名：ロビペス・ウヒルソニー・ロブ?	ii	-	113	c	-	Lobipes wilsoni, Lob. (?)
100				Streptopus interpres (L.)	-	[なし]	i	Kiyo-jyau shigi	092	a	Streptopus interpres (L.)	Streptopus interpres, L.
101	は右 03	08-27	7	Calidris arenaria (L.)	110	洋名：■■■■・アレナリア・エル・■■ リンダ	ii	-	110	a	Calidris arenaria (L.)	Calidris arenaria, L.
102	は左 04	08-07	13	Gallinago scolopacea (Bp.)	117	■■■■	i	Ji-shigi	117	a	Gallinago scolopacea, Bp.	Gallinago scolopacea, Bp.
103	は中 04	08-16	20	Gallinago australis (Lath.)	116	ヤマシギ	i	Yama-shigi	116	a	Gallinago australis (Lath.)	Gallinago australis, Lath.
104				Scolopax rusticola (L.)	115	ホドシギ	i	Hodo-shigi	115	a	Scolopax rusticola, L.	Scolopax rusticola, L.
105	は右 04	08-22	10	Gallinago solitaria (Hodgs.)	118	洋名：ガリナゴ・ソリタリア・ホツチ ス	ii	-	118	a	Gallinago solitaria, Hodgs.	Gallinago solitaria, Hodgs.
106				■■■■ [別ラベル下]	000	ガリナゴ・ガルリニエラ・ジャウキ・ スナイブ	ii	-	119	a	Gallinago gallinula (L.)	Gallinago gallinula, L.
107				Rhynchaea bengalensis (L.)	145	タマシギ	i	Tama-shigi	145	a	Rhynchaea bengalensis (L.)	Rhynchaea bengalensis, L.
108	は左 05	08-08	付箋無	Machetes pugnax (L.)	111	洋名：マチエテス・バグナクス	ii	-	111	a	Machetes pugnax (L.)	Machetes pugnax, L.
109				Pseudoscolopax semipalmatus	■■■■	-	ii	-	120	a	Pseudoscolopax semipalmatus, Jerdon	Pseudoscolopax semipalmatus, Jerdon
110	は中 05	08-21	3	[ケースにラベルなし]	-	[ケースにラベルなし]	-	-	-	-	-	-
111	は右 05	08-24	10	Limosa uropygialis (Gould)	101	コシヤクシドリ	i	Koiyaku chidori	101	a	Limosa uropygialis, Gould	Limosa uropygialis, Gould
112	は左 06	08-09	10	Tringoides hypoleucus (L.)	100	洋名：■■■■	ii	-	100	a	Tringoides hypoleucus (L.)	Tringoides hypoleucus, L.
113	は中 06	08-20	9	Totanus glottis (L.)	095	アヲアシドリ	i	Awo-ashi chidori	095	a	Totanus glottis (L.)	Totanus glottis, L.
114	は右 06	08-25	2	Totanus fuscus (L.)	097	洋名：トタヌス・フスカス・エル・ス ボテツド・レッドシャンク	ii	-	097	a	Totanus fuscus (L.)	Totanus fuscus, L.
115	は左 07	08-10	20	Totanus incanus (Gm.)	094	洋名：トタヌス・インカヌス・ジーエ ム・クレイサントビバー	ii	-	094	a	Totanus incanus (Gm.)	Totanus incanus, Gm.
116	は中 07	08-18	13	Totanus glareola (L.)	099	洋名：トタヌス・グラレオラ・エル・ワー ド・サントビバー	ii	-	099	a	Totanus glareola (L.)	Totanus glareola, L.
117	は右 07	08-26	3	Totanus ochropus (L.)	098	洋名：トタヌス・オクロプス・エル・ グリーン・サントビバー	ii	-	098	a	Totanus ochropus (L.)	Totanus ochropus, L.
118	は左 08	08-11	1	Haematopus ocellatus (Swinh.)	093	ミヤコシギ	i	Miyako shigi	093	a	Haematopus ocellatus, Swinhoe	Haematopus ocellatus, Swinhoe
119	は中 08	08-19	6	Aegialitis placida (Gray)	086	イカルチドリ	i	Ikaru-chidori	086	a	Aegialitis placida, Gray	Aegialitis placida, Gray
120				■■■■	■■■■	■■■■	ii	-	087	c	Aegialitis dubia (Scop.)	Aegialitis dubia, Scop. = euronica, Gm.

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BI 和名	BI1880 和名	1880 種番号	学名変遷	BI1878 学名	BI1880 学名
121				Aegialitis cantiana (■ th.)	085	シロチドリ	i	Shiro-chidori	085	a	Aegialitis cantiana (Lath.)	Aegialitis cantiana, Lath.
122	は右 08	7		Aegialitis mongolica (Pall)	088	洋名：イジアリチス・モンゴリ■■■・ ■■■	ii	-	088	c	Aegialitis ruficapilla (Temm.) ?	Aegialitis mongolica, Pall. =ruficapilla, Temm.
123	は左 09	16		Charadrius fulvus (Gm.)	084	ムネダロシギ	i	Muneguro-shigi	084	a	Charadrius fulvus, Gm.	Charadrius fulvus, Gm.
124	は中 09	3		Squatarola helvetica (L.)	091	洋名：スクエアタロラ・ヘルベチカ・ エル・グライ・プロハー	ii	-	091	a	Squatarola helvetica (L.)	Squatarola helvetica, L.
125	は右 09	3		Vanellus cristatus (Mey.)	089	タゲレ	i	Tagere	089	a	Vanellus cristatus, Mey.	Vanellus cristatus, Mey.
126				Lobivanellus inornatus (T.&S.)	090	■■■■	i	Kire	090	a	Lobivanellus inornatus, T. & S.	Lobivanellus inornatus, T. & S.
127				Grus leucauchen (T.)	142	タンチヤウ	i	Tan-chiyau	142	a	Grus leucauchen, T.	Grus leucauchen, T.
128				■■■ sianus ■■■ lor (Vieil)	000	■■■■	i	Kizhi	153	a	Phasianus versicolor, Vieill.	Phasianus versicolor, Vieill.
129				Phasianus soemmerringi (T.)	154	ヤマドリ	i	Yamadori	154	a	Phasianus soemmerringi, T.	Phasianus soemmerringi, T.
130	は下	19		Tetrastes bonasia (L.)	155	エゾライチヤウ、北海道方言ヤマドリ	i	Yezo rai-ichu/ Yamadori	155	a	Tetrastes bonasia (L.)	Tetrastes bonasia, L.
131				Coturnix japonica (T.&S.)	157	ウ■■■	i	Udzura	157	a	Coturnix japonica, T. & S.	Coturnix japonica, T. & S.
132				■■■ Bon ■■■	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
133				Grus [「マ」]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
134				Grus [「マ」]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
135	ろ左 01	07-02		Trogon sieboldi (Temm.)	161	アヲバト	i	Awo-bato	161	a	Trogon sieboldi, Temm.	Trogon sieboldi, Temm.
136	ろ中 01	07-42	付箋無	Turtur risorius (L.)	160	シラコバト	i	Shirako-bato	160	a	Turtur risorius, L.	Turtur risorius, L.
137	ろ右 01	07-01	3	Turtur gelastes (Temm.)	159	キジバト	i	Kizhi-bato	159	a	Turtur gelastes, Temm.	Turtur gelastes, Temm.
138				Cuculus [「マ」]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
139				Cuculus canorus (L.)	163	カコ	i	Kako	163	a	Cuculus canorus, L.	Cuculus canorus, L.
140	ろ左 02	07-16	18	Cuculus poliocephalus (Lath.)	164	ホト、キス	i	Ho-to-to-gisu	164	c	Cuculus, sp.	Cuculus poliocephalus, Lath.
141				Cuculus fugax (Horsf.)	-	[なし]	-	Zhifu-ichi	166	d	Heirocoeyx fugax, Horsf.	Heirocoeyx fugax, Horsf.
142				■■■■ [別ラベル下]	174	アリス	i	Arisu	174	a	Yunx japonica, Bp.	Yunx japonica, Bp.
143				■■■ [別ラベル下] (L.)	171	クマゲラ	i	Kuma-gera	171	a	Dryocopus martius (L.)	Dryocopus martius, L.
144	ろ中 02	07-10	13	Gecinus canus (Gm.)	172	ヤマゲラ	i	Yama-gera	172	a	Gecinus canus (Gm.)	Gecinus canus, Gm.
145				Gecinus awokera (T.&S.)	173	アヲケラ	i	Awo-gera	173	a	Gecinus awokera, T. & S.	Gecinus awokera, T. & S.
146				Picus major (L.)	167	アカ■■■	i	Akagera	167	a	Picus major, L.	Picus major, L.
147	ろ右 02	07-29	23	Picus minor (L.)	168	洋名■■■■	ii	-	168	c	Picus minor, L.	Picus minor, L.
148				Picus leuconotus (Bechst.)	169	オ、アカゲラ	i	Oho-akagera	169	a	Picus leuconotus, Bechst	Picus leuconotus, Bechst
149				■■■■ [別ラベル下]	■■■■	■■■■ [別ラベル下]	-	-	-	d	-	-
150	ろ左 03	07-15	6 (7に修正)	Alauda [「マ」]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
151				Alauda japonica (T.&S.)	-	[なし]	i	Hibari	266	a	Alauda japonica, T. & S.	Alauda japonica, T. & S.
152	ろ中 03	07-40	4 (8に修正)	Plectrophanes nivalis (L.)	279	ウキホジロ	i	Uki-hozhiro	279	a	Plectrophanes nivalis (L.)	Plectrophanes nivalis, L.
153				Schoenicola yessoensis (Swinh.)	-	[なし]	i	Nabikaburi	277	b	Schoenicola yessoensis, Swinh.	Emberiza yessoensis, Swinh.
154	ろ右 03	07-03	9	Schoenicola palustris (Sw.) / pyrrhulina (Swinh)	-	[断片のみ、なしカ]	i	Oho-jorin	278	b	Schoenicola pyrrhulina, Swinhoe	Emberiza schoeniclus, Linn.
155	ろ左 04	07-13	29	Emberiza personata (Pall.)	272	アヲジ	i	Awozhi	272	a	Emberiza personata, Pall.	Emberiza personata, Pall.
156				Emberiza ciopsis (Bp.)	268	ホホジロ	i	Hoho-zhiro	268	a	Emberiza ciopsis, Bp.	Emberiza ciopsis, Bp.
157	ろ中 04	07-12	30	Emberiza elegans (Temm.)	270	ミヤマホホシロ	i	Miyama-hoho-zhiro	270	a	Emberiza elegans, Temm.	Emberiza elegans, T.
158				■■■ [別ラベル下] (Pall.)	271	カシラダカ	i	Kashira-daka	271	a	Emberiza rustica, Pall.	Emberiza rustica, Pall.
159				■■■ (Pall.)	■■■ 9	■■■カ	-	Hojo-aka	269	a	Emberiza fucata, Pall.	Emberiza fucata, Pall.
160	ろ右 04	07-04	32 (37に修正)	Eusiza aurula (Pall.)	-	[なし]	-	Shima-awozhi	273	b	Emberiza aurula, Pall.	Emberiza aurula, Pall.
161				Eusiza variabilis (T.&S.)	-	[なし]	-	Kurozhi	274	b	Emberiza variabilis, T. & S.	Emberiza variabilis, T. & S.
162				Emberiza sulphurata (T.&S.)	275	ノシロ	i	Nojiko	275	c	Emberiza sulphurata, T. & S.	Emberiza sulphurata, T. & S.
163	ろ左 05	07-14	21	Uragus sanguinolentus (T.&S.)	289	ベニマシコ	i	Beni-mashiko	289	b	Uragus sanguinolentus, T. & S.	Uragus sanguinolentus, Temm.
164				Carpodacus roseus (Pall.)	290	オ、マシコ	i	Oho-mashiko	290	a	Carpodacus roseus, Pall.	Carpodacus roseus, Pall.
165	ろ中 05	07-30	10	Pyrrhula orientalis (T.&S.)	296	テリウソ	i	Teri-uso	296	a	Pyrrhula orientalis, T. & S.	Pyrrhula orientalis, T. & S.
166	ろ右 05	07-05	10	Coccothraustes japonicus (Bp.)	292	ヒミ	i	Himi	292	a	Coccothraustes japonicus, Bp.	Coccothraustes japonicus, Bp.

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BJ 和名	BJ1880 和名	1880 種番号	学名変遷	BJ1878 学名	BJ1880 学名
167				Coccothraustes personata (Schleg.)	293	イカル	i	Ikaru	293	b	Coccothraustes personatus, Schleg.	Coccothraustes personatus, T. & S.
168				Loxia albiventris (Swinh.)	295	■カ	i	Isuka	295	a	Loxia albiventris, Swinh.	Loxia albiventris, Swinh.
169	ろ左 06	07-35	29	Passer rutilans (Temm.)	282	ニウナイスズメ		Niunai-suzume	282	a	Passer rutilans, Temm.	Passer rutilans, Temm.
170	ろ中 06	07-23	6	Passer montanus (L.)	281	スヘメ	i	Suzume	281	a	Passer montanus (L.)	Passer montanus, L.
171	ろ右 06		付箋無	Aegiothus borealis (Temm.)	-	[なし]	i	Beni-hiha	286	b	Aegiothus borealis, Temm.	Linota rufescens, Vieill. (?)
172				Aegiothus linaria (L.)	-	[なし]	i	Ko-boni-hiha	287	b	Aegiothus linaria (L.)	Linota rufescens, Vieill. (?)
173	ろ左 07	07-31	16	Leucoscietea brunneinucha (Brandt.)	288	ハギマシコ	i	Hagi-mashiko	288	a	Leucoscietea brunneinucha, Brandt.	Leucoscietea brunneinucha, Brandt.
174	ろ中 07	07-11	8	Fringilla montifringilla (L.)	280	アトリ	i	Atori	280	a	Fringilla montifringilla, L.	Fringilla montifringilla, L.
175				Chlorospiza kawarabiba (T.&S.)	283	カワラヒバ	i	Kahara-hiba	283	a	Chlorospiza kawarabiba, T. & S.	Chlorospiza kawarabiba, T. & S.
176	ろ右 07	07-07	11	Chlorospiza sinica (L.)	284	洋名：クロロスビザ・シニカ・エル・チャイナ・ゴールデンウイング	ii	-	284	a	Chlorospiza sinica (L.)	Chlorospiza sinica, L.
177	ろ左 08	07-24	4	Chrysomitris spinus (L.)	285	マヒワ	i	Ma-hiha	285	a	Chrysomitris spinus (L.)	Chrysomitris spinus, L.
178	ろ中 08	07-39	17	Sturnia pythagorae (T.&S.)	203	シマムクドリ	i	Shima-muku-dori	203	a	Sturnia pythagorae, T. & S.	Sturnia pythagorae, T. & S.
179	ろ右 08	07-08	10	Sturnus cineraceus (T.)	201	ムクトリ	i	Muku-dori	201	a	Sturnus cineraceus, T.	Sturnus cineraceus, T.
180				Corvus pastinator (Gould)	192	ミヤマガラス	i	Miyama-garasu	192	a	Corvus pastinator, Gould	Corvus pastinator, Gould
181	ろ左 11	07-27	1 (3に修正)	Corvus neglectus (Swinhoe)	194	洋名：コルプス・ネグレクト・ジャックダウ	ii	-	194	a	Corvus neglectus, Swinh.	Corvus neglectus, Swinh.
182				Pica [ママ]	195	ヒゼンガラス	i	Hizen-Karasu	195	d	Pica media, Blyth.	Pica media, Blyth. (?)
183	ろ右 09	07-25	8	Corvus corone ■■■	190	ハシボソガラス	i	Hashiboso-garasu	190	a	Corvus corone, L.	Corvus corone, L.
184	ろ左 12	07-28	4	Corvus japonensis (Bp.)	189	ハシブトガラス	i	Hashibuto-garasu	189	a	Corvus japonensis, Bp.	Corvus japonensis, Bp.
185	ろ右 10	07-26	1	Corvus corax (L.)	191	ワタリガラス	i	Watar-garasu	191	a	Corvus corax, L.	Corvus corax, L.
186	ろ下左 33	07-53	1	Cyanopoplia cyanus (Pall.)	196	ヲナダドリ	i	Onaga-dori	196	a	Cyanopoplia cyanus (Pall.)	Cyanopoplia cyanus, Pall.
187	ろ下中 23	07-18	4	Nucifraga caryocatactes (L.)	197	ホシガラス	i	Hoshi-garasu	197	a	Nucifraga caryocatactes	Nucifraga caryocatactes, L.
188				Garrulus japonicus (Bp.)	199	カケス	i	Kakisu	199	a	Garrulus japonicus, Bp.	Garrulus japonicus, Bp.
189	ろ下右 13	07-52	10	Garrulus brandti (Eversm.)	198	ミヤマカケス	i	Miyama-kakisu	198	a	Garrulus brandti, Eversm.	Garrulus brandti, Eversm.
190	ろ下左 34	07-55	5	Cyanoptila cyanomelana (T.)	207	オホルリ	i	Onuri	207	a	Cyanoptila cyanomelana, T.	Cyanoptila cyanomelana, T.
191				Tchitrea princeps (T.)	211	サココチャウ	i	Sankochiyau	211	a	Tchitrea princeps, T.	Tchitrea princeps, T.
192	ろ下中 24	07-20	11	Xanthopygia narsissina ■■■	209	キビタキ	i	Kibitaki	209	a	Xanthopygia narsissina, T.	Xanthopygia narsissina, T.
193				Buialis latirostris (Raffles)	208	シマモズ	i	Shima-modzu	208	a	Buialis latirostris (Raffles)	Buialis latirostris, Raffles
194	ろ下右 14	07-41	11	Pericrocotus ■■■■	212	ライチャウ [ママ] 一名サンシヨクイ	i	Raifun/Sanshiyaukui	212	a	Pericrocotus cinereus (Laftr.)	Pericrocotus cinereus, Laftr.
195				Lanius bucephalus (T.&S.)	204	モズ	i	Modzu	204	a	Lanius bucephalus, T. & S.	Lanius bucephalus, T. & S.
196	ろ下左 35	07-34	8	Lanius superciliosus ■■■	205	■■■■ [別ラベル下]	i	Aka-modzu	205	a	Lanius superciliosus, L.	Lanius superciliosus, L.
197				Lanius [ママ]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
198	ろ下中 25	07-19	6	Amperis phoenicoptera (T.)	214	ヒレンジャク	i	Hi-ren-zhiyaku	214	a	Ampelis phoenicoptera, T.	Ampelis phoenicoptera, T.
199	ろ下右 15	07-36	9	Ampelis garrula (L.)	213	キレンジャク	i	Ki-renjaku	213	a	Ampelis garrula, L.	Ampelis garrula, L.
200	ろ下左 36	07-49	6	Hypsipetes amaurotis (T.&S.)	257	ヒヨドリ	i	Hiyo-dori	257	a	Hypsipetes amaurotis, T. & S.	Hypsipetes amaurotis, T. & S.
201				Cinclus pallasi (T.)	247	カハガラス	i	Kaha-garasu	247	a	Cinclus pallasi, T.	Cinclus pallasi, T.
202	ろ下中 26	07-17	9	Monticola solitaria (Mull.)	256	イソヒヨドリ	i	Iso hiyo-dori	256	a	Monticola solitaria, Mull.	Monticola solitaria, Mull.
203				Turdus sibiricus (Pall.)	■ ■ ■ ■	マメジロ	i	Mame-zhiro	258	a	Turdus sibiricus, Pall.	Turdus sibiricus, Pall.
204	ろ下右 16	07-43	7	■ ■ ■ ■ [別ラベル下]	260	■■■■	i	Kuro-tsugu/Ko-ke	260	a	Turdus cardis, T.	Turdus cardis, T.
205				Oreocincla varia (Pall.)	265	ヌエジナイ	i	Nuyejinai	265	a	Oreocincla varia (Pall.)	Oreocincla varia, Pall.
206				Turdus [ママ]	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
207	ろ下左 37	07-32	9	Turdus pallidus (Gmel.)	259	シロハラ	i	Shiropara	259	a	Turdus pallidus, Gmel.	Turdus pallidus, Gmel.
208				Turdus chrysolaus (Temm.)	263	■■■■ [別ラベル下]	i	Akapara	263	a	Turdus chrysolaus, Temm.	Turdus chrysolaus, Temm.
209	ろ下中 27	07-09	23	Turdus naumanni (T.)	261	アカジナイ	i	Akazhinai	261	a	Turdus naumanni, Temm.	Turdus naumanni, T.
210				Turdus fuscatus (Pall.)	264	チャウマ	i	Chiyuuma	264	a	Turdus fuscatus, Pall.	Turdus fuscatus, Pall.
211				■■■■ thus ■■■■ leu. ■■■	22	■■■■	i	Ta-hibari	226	a	Anthus japonicus, T. & S.	Anthus japonicus, T. & S.
212			破損	Anthus cer ■■■■	227	洋名：アンソウス・セルグヌス ■■■	ii	-	227	c	Anthus, sp.	Anthus cervinus, Pall.
213	ろ下右 17	07-33		Anthus [ママ]	■■■■	■■■■	-	-	-	d	-	-
214				■■■■ [別ラベル下]	■■■■	■■■■ [別ラベル下]	-	-	-	d	-	-

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BI 和名	BI1880 和名	1880 種番号	学名変遷	BI1878 学名	BI1880 学名
215	ろ下左 38	07-50	付箋無	Motacilla melanocephala (Pall.)	-	[なし] *3	-	Ki-sekirei	229	b	Motacilla melanocephala, Pall	Motacilla boarula, L.
216	ろ下中 28	07-54	12	Motacilla japonica (Swinh.)	230	キセキレイ *3	*	Seguro-sekirei	230	a	Motacilla japonica, Swinh.	Motacilla japonica, Swinh.
217				■■■■ [別ラベル下]	215	ヒガラ	i	Hi-gara	215	a	Parus ater, L.	Parus ater, L.
218				Parus palustris (L.) subsp. japonicus	216	コガラ	i	Ko-gara	216	c	Parus borealis, Selys.	Parus borealis, L.
219				Pass ■■■ [別ラベル下]	217	シジブカラ	i	Shizhibu-kara	217	a	Parus minor, T. & S.	Parus minor, T. & S.
220	ろ下右 18	07-56	38	Parus varius (T.&S.)	218	ヤマガラ	i	Yama-gara	218	a	Parus varius, T. & S.	Parus varius, T. & S.
221				Acridula caudata ■■■	220	シマツナギ	i	Shima-wo-naga	220	a	Acridula caudata (Linn.)	Acridula caudata, L.
222				Aegithalus consobrinus (Swinh.)	221	洋名：イギザリス・コンソブリヌス・スウインホー	ii	-	221	c	-	Aegithalus consobrinus, Swinhoe
223				Accentor rubidus (T.&S.)	-	[なし]	i	Kaya-kuguri	223	a	Accentor rubidus, T. & S.	Accentor rubidus, T. & S.
224	ろ下左 39	07-22	21	Pratincola indica (Blyth.)	254	ノビタキ	i	Nobitaki	254	a	Pratincola indica, Blyth.	Pratincola indica, Blyth.
225				Eriothacus akabige (T.&S.)	248	コマドリ	i	Komadori	248	a	Eriothacus akabige, T. & S.	Eriothacus akabige, T. & S.
226				Larvivora cyane (Pall.)	250	コルリ	i	Ko-ruri	250	a	Larvivora cyane (Pall.)	Larvivora cyane, Pall.
227	ろ下中 29	07-46	17	Ianthia cyanura (Pall.)	251	ルリビタケ	i	Ruribitake	251	a	Ianthia cyanura (Pall.)	Ianthia cyanura, Pall.
228				Calliope camtschatkensis (Gm.)	252	ノゴマ	i	Nogoma	252	a	Calliope camtschatkensis (Gm.)	Calliope camtschatkensis, Gm.
229				■■■■ [別ラベル下] (Pall.)	253	ジャウビタキ	i	Zhiyau-bitaki	253	a	Ruticilla aurea (Pall.)	Ruticilla aurea, Pall.
230				■■■■ [別ラベル下] (T. & S.)	241	メボソ	i	Me-boso	241	a	Phylloscopus coronatus, T. & S.	Phylloscopus coronatus, T. & S.
231	ろ下右 19	07-51	9	Phylloscopus xanthodryas (Swinh.)	242	洋名：フロスコプス・ランドロリス・スインホー・ウイロー■■■■	ii	-	242	a	Phylloscopus xanthodryas, Swinh.	Phylloscopus xanthodryas, Swinhoe
232				■■■■	246	キクイタダキ	i	Kiku-itadaki	246	a	Regulus japonicus, Bp.	Regulus japonicus, Bp.
233				■■■■ [別ラベル下] (Swinh.)	232	コヨシ	i	Ko-yoshi	232	d	Herbivox cantians? T. & S.	Acrocephalus bistrigatus, Swinhoe
234	ろ下左 40	07-21	22	Urosphena squameiceps (Swinh.)	234	■■■■	i	-	234	a	Urosphena squameiceps, Swinh.	Urosphena squameiceps, Swinhoe
235				Locustella lanceolata (Temm.)	239	洋名：ロクステラ・ランセオラタ・テム・■■■■ クラスワレン	ii	-	239	c	-	Locustella lanceolata, Temm.
236				Calamoderpe orientalis (T.&S.)	231	オホヨシ	i	Oho-yoshi	231	a	Calamoderpe orientalis, T. & S.	Calamoderpe orientalis, T. & S.
237				Herbivox cantians (T.&S.)	-	[なし]	-	Uguisu	233	b	Herbivox cantians, T. & S.	Cettia cantans, T. & S.
238				Cisticola ■■■ [別ラベル下]	235	センニウ	i	Senniu	235	c	Locustella brunneiceps (Temm.)	Cisticola cuscians, Frank.
239	ろ下中 30	07-44	10	Calamodyta insularis (Wall.)	-	[なし]	-	-	237	b	Calamodyta insularis, Wall.	Locustella fasciolata, Gray
240				fasciolata (Gray)	-	[なし]	-	Shima-senniu	238	b	Locustella subcerthiola, Swinh.	Locustella ochotensis, Midd.
241				Areoturnix blakistoni (Swinh.)	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
242				Zosterops japonica (T.&S.)	180	メジロ	i	Mejiro	180	a	Zosterops japonica, T. & S.	Zosterops japonica, T. & S.
243				Certhia familiaris (L.)	181	キバシリ	i	Kibashiri	181	a	Certhia familiaris, L.	Certhia familiaris, L.
244	ろ下右 20	07-45	24	Sitta europaea (L.)	222	キマハリ	i	Ki-mahari	222	a	Sitta europaea, L.	Sitta europaea, L.
245				Troglodytes fumigatus (Temm.)	245	ミソサビ	i	Miso-zahi	245	a	Troglodytes fumigatus, Temm.	Troglodytes fumigatus, Temm.
246				■■■■ [別ラベル下]	■■■■	■■■■ [別ラベル下]	-	-	-	d	-	-
247	ろ下左 41	07-57	17	Alcedo bengalensis (Gm.)	175	カハセミ	i	Kaha-semi	175	a	Alcedo bengalensis, Gm.	Alcedo bengalensis, Gm.
248				Halcyon cor ■■■	177	キヤウロコ	i	Kiyau-roko	177	d	Halcyon coromandeliana (Scoop.)	Halcyon coromanda, Bodd.
249	ろ下中 31	07-38	9	■■■■	176	カハテウ	i	Kaha-teu	176	a	Ceryle guttata, Vigors.	Ceryle guttata, Vigors.
250	ろ下右 21	07-37	18	Cotyle riparia (L.)	184	スナムグリツバメ	i	Tsuna-muguri-tsubame	184	a	Cotyle riparia (L.)	Cotyle riparia, L.
251				Hirundo gutturalis (Scoop.)	-	[なし]	i	Tsubakuro	182	a	Hirundo gutturalis, Scoop.	Hirundo gutturalis, Scoop.
252				■■■■	-	[なし]	-	-	-	d	-	-
253	ろ下左 42	07-58	10	Cecropis erythropgia (Sykes.) *4	-	[なし]	i	Yama-nakibakuro	183	c	Cecropis japonica, T. & S.	Cecropis erythropgia, Sykes.
254				Chelidon blakistoni (Swinh.)	1 ■■■	■■■■	i	Iwa-naki-tsubame	185	a	Chelidon blakistoni, Swinh.	Chelidon blakistoni, Swinh.
255	ろ下中 32	07-48	9	Cypselus pacificus (Lath.)	186	ナイリツバメ	i	Nairi-tsubame	186	a	Cypselus pacificus (Lath.)	Cypselus pacificus, Lath.
256				Chaetura caudata (Lath.)	■■■■	■■■■	i	Ana-tsubame	187	a	Chaetura caudata (Lath.)	Chaetura caudata, Lath.
257	ろ下右 22	07-47	5	Caprimulgus jotaka (T.&S.)	188	ヨタカ	i	Yotaka	188	a	Caprimulgus jotaka, T. & S.	Caprimulgus jotaka, T. & S.

ID	引出名	現引出番号	引出内付箋	学名ラベル	和名ラベル 数字	和名ラベル記載	BJ 和名	BJ1880 和名	1880 種番号	学名変遷	BJ1878 学名	BJ1880 学名
258				Ninox japonica (T.&S.)	298	アオバヅク	i	Avoba-dzuku	298	a	Ninox japonica, T. & S.	Ninox japonicus, T. & S.
259				Asio accipitrinus (Pall.)	300	コ■■■ク	i	Ko-mimi-dzuku	300	a	Asio accipitrinus (Pall.)	Asio accipitrinus, Pall.
260				Asio otus (L.)	301	トラフヅク	i	Tora-fu-dzuku	301	a	Asio otus (L.)	Asio otus, L.
261	ほ 01	10-01	12	Scops stictonotus (Sharpe)	303	洋名スコプス・スズ■■■・オウル	ii	-	303	a	Scops stictonotus, Sharpe	Scops stictonotus, Sharpe
262				Scops semitorques (Schleg)	304	オホコノハヅク	i	Oho-ko-no-ha-dzuku	304	a	Scops semitorques, Schleg.	Scops semitorques, Schleg.
263				Scops semitorques major	305	洋名スコプス・セミトルクス・マジオウル	ii	-	305	c	-	Scops semitorques-major
264				Syrnium uralense rufescens (Temm.)	299	フクロウ	i	Fukurou	299	c	Syrnium rufescens, Temm.	Syrnium rufescens, Temm.
265	ほ 02	10-02	3	Bubo maximus (Sibbald.)	302	シマフクロウ	i	Shima-fukurou	302	b	Bubo maximus, Sibbald.	Bubo ignavus, T. Forster
266				■■■■	■■■■	■■■■カ	-	-	-	d	-	-
267				Accipiter nisus (L.)	318	洋名：アクシビ■■■	i	Konori / Haitaka	318	a	Accipiter nisus (L.)	Accipiter nisus, L.
268				Accipiter gularis (T.&S.)	319	ツウメ	i	Tsume	319	a	Accipiter gularis, T. & S.	Accipiter gularis, T. & S.
269	ほ 03	10-03	7	Circus cyaneus (L.)	324	テウチ	i	Teuchi	324	a	Circus cyaneus (L.)	Circus cyaneus, L.
270				Circus spilonotus (Kaup)	325	洋名：シルクス・スピロノチユス・カウプ・ハ■■■	ii	-	325	a	Circus spilonotus, Kaup.	Circus spilonotus, Kaup.
271	ほ 04	10-04	5	[ケースにラベルなし]	-	[ケースにラベルなし]	-	-	-	-	-	-
272	ほ 05	10-05	10	Milvus melanotis (T.&S.)	310	トンビ	i	Tonbi	310	a	Milvus melanotis, T. & S.	Milvus melanotis, T. & S.
273				Cerchneis timunculus japonicus (T.&S.)	320	マガソダカ	i	Maguso-daka	320	c	Timunculus japonicus, T. & S.	Cerchneis timunculus susp. japonicus, T. & S.
274	ほ 06	10-06	11	Hypotriorchis subbuteo (L.)	321	チゴハヤブサ	i	Chigo-hayabusa	321	a	Hypotriorchis subbuteo, L.	Hypotriorchis subbuteo, L.
275				Hypotriorchis ■■■	322	コテウゲンボ	i	Koteu-genbo	322	a	Hypotriorchis acesalon, L.	Hypotriorchis acesalon, L.
276	ほ 07	10-07	7	Falco peregrinus ■■■	323	ハヤブサ	i	Hayabusa	323	a	Falco peregrinus, Tunst.	Falco peregrinus, Tunst.
277				Pandion haliaetus (L.)	309	ミサゴ	i	Misago	309	a	Pandion haliaetus (L.)	Pandion haliaetus, L.
278	ほ 08	10-08	1	Buastur indicus (Gmel. & Lath)	315	サシバ	i	Sashiba	315	d	Buastur indicus, Gmel.	Buastur indicus, Gmel.
279	ほ 09	10-09	5	Archibuteo lagopus (Gmel.)	312	■■■イエシノリ [ママ]	i	Keashinosuri	312	a	Archibuteo lagopus (Gm.)	Archibuteo lagopus, Gm.
280				Buteo japonicus (T.&S.)	313	アカノスリ	i	Aka-nosuri	313	a	Buteo japonicus, T. & S.	Buteo japonicus, T. & S.
281	ほ 10	10-10	2	Spizaetus nipalensis (Hodgs.)	311	クマタカ	i	Kuma-taka	311	c	Spizaetus nipalensis, Hodgs.	Spizaetus nipalensis, Hodgs.
282	ほ 11	10-11	4	Haliaetus albicollis (L.)	307	オホジロワシ	i	Oho-zhiro-washi	307	a	Haliaetus albicollis (L.)	Haliaetus albicollis, L.
283	[ほ 12]	10-12	2	Haliaetus pelagicus (Pall.)	308	オホワシ	i	Oho-washi	308	a	Haliaetus pelagicus, Pall.	Haliaetus pelagicus, Pall.

ID 欄は、本文において I-ID という形で当該行を示すための番号である。引出名欄は、記載数字をアラビア数字に改めた。引出内付箋欄の数字は、付箋に記されている「七羽」などの点数のみをアラビア数字で示している。ラベル欄の■■■は判読できないことを示すが、厳密な文字数を示しているわけではない。和名ラベル数字欄の数字は、ラベル記載和名ラベルでは漢数字で記載されているが、ここではアラビア数字に改めた。和名ラベルにおいて、和名が記載されているものは「和名 オホワシ」と記載されているが、和名ラベル記載欄では省略し、洋名が記載されているもののみ表記した。

*1 鉛筆でアカハジロに修正してある

*2 鉛筆でアラサギに修正してある

*3 種番号 229 がセキレイであるべきだが、混同している

*4 引出し外側ではなく、内部に貼付けられている

キストンとプライヤーによる鳥類目録の第1版である「A Catalogue of the Birds of Japan」(Blakiston & Pryer 1878、以下「BJ1878」)にみられる記述と共通する誤りであり、ラベルの記載は「BJ1878」に従っているものとみなされる。

1-021 : *Chroicocephalus ridibundus* (L.)

対応する和名ラベルは引出しに付属していないが、アラビア数字による「73」の番号が記載された付箋が学名ラベルの脇に付属している。「BJ1880」の種番号 073 は「*Larus ridibundus*」ユリカモメである。「BJ1878」における当該種は学名ラベルの学名で記載されており、ラベルは「BJ1878」に依拠していることがわかる。

1-022 : *Larus glaucescens* (Brandt)

前項と同様和名ラベルは付属せず、「67」の番号が記載された付箋が付属している。「BJ1880」の種番号 067 および対応する「BJ1878」ではラベルと同じ学名が用いられているが、「BJ1880」では記載者が学名ラベルの「Brandt」ではなく「Licht.」となっており、ラベルの記載は「BJ1878」に依拠していることがわかる。

1-025 : *Larus tridactylus* (L.)

学名ラベルの記載は「BJ1878」と共通であり、「BJ1880」の「*Rissa tridactyla*」とは異なる。

1-028 : *Larus glaucus* (L.)

ラベルの学名は「BJ1878」、「BJ1880」と共通であるが、「BJ1880」の記載者名が「Fobr.」(正しくは「Fabr.」であり、「BJ1882」で修正してある)となっており、ラベルの記載は「BJ1878」に依拠している。

1-062 : *Mergellus albellus* (L.)

学名ラベルの脇にある和名ラベルは種番号 054 ミコアイサである。学名ラベルの記載は「BJ1880」の「*Mergulus albellus*」ではなく、「BJ1878」において誤って記載されているものと共通である。

1-094 : *Tringa damacensis* (Horsf.)

学名ラベルの記載は「BJ1878」と共通であり、「BJ1880」の「*Tringa ruficollis*」とは異なる。

1-153 : *Schoenicola yessoensis* (Swinh.)

学名ラベルの記載は「BJ1878」と共通であり、「BJ1880」の「*Emberiza yessoensis*」とは異なる。

1-154 : *Schoenicola palustris* (Savi.) / *pyrrhulina* (Swinh.)

「BJ1878」における当該種の学名は「*Schoenicola pyrrhulina*」であり、学名ラベルの後半部と合致する。「BJ1880」では「*Emberiza schoeniclus*」として立項されており、ラベルとは異なっている。

1-160 : *Euspiza aureola* (Pall.) および 1-161 : *Euspiza variabilis* (T.&S.)

いずれも「BJ1878」の学名と共通であり、「BJ1880」の属名「*Emberiza*」とは異なっている。

1-163 : *Uragus sanguinolentus* (T.&S.)

ラベルの学名は「BJ1878」、「BJ1880」とも共通であるが、記載者名は「BJ1878」に依拠しており、「BJ1880」の「Temm.」とは異なる。

1-167 : *Coccothraustes personata* (Schleg.)

ラベルの学名は「BJ1878」、「BJ1880」とも共通であるが、記載者名は「BJ1878」に依拠しており、「BJ1880」の「T. & S.」とは異なる。

1-171 : *Aegiothus borealis* (Temm.) および 1-172 : *Aegiothus linaria* (L.)

ラベルの学名はいずれも「BJ1880」の解説文において引用されているが、「BJ1880」で立項された学名は「*Linota linaria*」および「*Linota rufescens*」であり、ラベルの記載学名は「BJ1878」に依拠している。

1-215 : *Motacilla melanope* (Pall.)

ラベルの学名は「BJ1880」の解説文において引用されているものの、立項されている学名は「*Motacilla boarula*」であり、ラベルは「BJ1878」に依拠している。

1-237 : *Herbivox cantans* (T.&S.)

ラベルが依拠している属名は「BJ1878」のものであり、「BJ1880」の「*Cettia cantans*」とは異なる。

1-239 : *Calamodyta insularis* (Wall.) / *fasciolata* (Gray)

「BJ1878」で立項されている学名は「*Calamodyta insularis*, Wall.」であり、ラベル記載の前半部と合致する。「BJ1880」で立項された学名は「*Locustella fasciolata*」である。ブラキストンが学名を変更した理由は、シーボームによる「BJ1878」へのコメント (Seeböhm 1879) に依拠しているものと考えられ、ラベルは「BJ1878」から「BJ1880」への解釈移行の様子を示している可能性がある。

1-240 : *Locustella subcerthiola* (Swinh.)

「BJ1880」の解説文にラベル記載の学名は確認されるものの立項されておらず、ラベルは「BJ1878」に依拠している。
1-265: Bubo maximus (Sibbald.)

ラベルの学名は「BJ1878」のものであり、「BJ1880」の「Bubo ignavus」とは異なる。ただし、「BJ1880」の解説文にラベルの学名の記載はある。

以上のように、表1で「b」に区分した学名ラベルの記載は「BJ1880」ではなく、「BJ1878」に依拠している。1-005 などのようにわずかなスペルミスや、1-167 のように学名は「BJ1880」と共通で記載者名のみ異なっている場合は、和名ラベルが付属するものの、学名が「BJ1878」と「BJ1880」の間で大きく異なっている場合は、対応する学名を「BJ1880」において見出すことができなかったため、和名ラベルが記載できなかったものと推測されるのである。

しかし、以下に示すように、学名ラベルは「BJ1878」のみに依拠しているといえない点もある。1-239 で示したように、学名の記述の方針が「BJ1880」への移行を示している可能性も示唆されていることから、学名ラベルの由来を明らかにするためには更なる検討が必要である。続いて、学名変遷欄で「d」に区分した学名ラベルについて確認することとした。

区分「d」としたものは、学名ラベルの記載が依拠している情報が判明しないものである。1-018、1-019 のようにラベルが劣化したり、後世に付与されたラベルが上部にあることで記載が読めないために判断できない事例、1-278 「Butastur indicus (Gmel. & Lath)」のように、学名は「BJ1878」ではなく「BJ1880」に依拠しているが、学名記載者が「BJ1880」の「Gmel.」とは異なる事例、1-241 「Areoturnix blakistoni (Swinhoe)」は、スウィンホー (R. Swinhoe 1836-1877) による中国産鳥類目録 (Swinhoe 1871) において、ブラキストンが広東で採集した標本に基づいて新種として記載された種であって、日本産鳥類目録である「BJ」には記載されていない種である事例などである。また、1-026、1-133、1-182 など属名のみが記載され、「BJ」と対応させられないものも含まれている。これらに含まれないものについて、個別に紹介してゆく。

1-007: Mergullus alle

この記載は学名ラベルでは抹消しているようにみえる。学名そのものは「BJ1880」に確認することができないが、種番号 006 「Phaleris pusilla」の解説部分に「M. alle」に関する記述がある。一方、「BJ1878」では、この種を「Merugulus, sp.」と示し、ここでも「M. alle」の記述がある。ラベルの学名はこれに基づくものであろう。

1-043: Eunetta falcata (Pall.) および 1-044: Eunetta formosa (Georgi)

ラベルにある属名「Eunetta」と「BJ1878」および「BJ1880」の当該種の属名「Querquedula」はシノニムであるが、「Eunetta」は「BJ」には確認できず、どのような情報に依拠して記載されたのか不明である。

1-141: Cuculus fugax (Horsf.)

この学名は、ジュウイチを示す。ブラキストンはジュウイチを「BJ1878」では「Cuculus, sp.」とし、「BJ1880」では「Heirococcyx fugax」としており、ラベルの学名は「BJ1878」から「BJ1880」への解釈移行の様子を示している可能性がある。

検討する材料が少ないため、「d」に区分されたこれらの学名がどのような情報に基づいて記載されたのかは明確にはしえないが、1-141 では「BJ1878」から「BJ1880」への移行の可能性が示唆された。学名ラベルに記載されている学名が移行期に利用されていたことを示すために、その他の学名ラベルをさらに区分することとした。

表1において「学名変遷」欄に「c」とあるものは、「BJ1878」と「BJ1880」の間で利用されている学名が変更されているもので、ラベル記載の学名が「BJ1880」と合致するものである（区分「a」は「BJ1878」および「BJ1880」で同じ学名が用いられているもの）。区分「b」に含まれる種の学名記載が「BJ1878」に依拠する傾向を示すのに対し、「c」に区分された29種は「BJ1880」に依拠する傾向を示している。つまり、学名ラベルは特定の鳥類目録に従っているのではなく、「BJ1878」から「BJ1880」の間、つまりブラキストンが開拓使に標本を寄贈した1879年ごろの分類に対する考え方に基づいて記載されたものであり、この記載を行ったのはブラキストン自身であると推察されるのである。

既述したように、和名ラベルが「BJ1880」に依拠しており、学名ラベルが「BJ1878」から「BJ1880」への移行期に作成されたものであることから、「b」や「d」に区分された種に対しては対応する学名を「BJ1880」に見出せず、和名ラベルが付与されなかったものとみなされる。例外は1-265の「Bubo maximus」、1-182の「Pica」、1-043の「Eunetta falcata」および1-044の「Eunetta formosa」である。前二者については、当該属名を持つ種が他に存在しないために記載しえた可能性があるが、後二者については、なぜ和名ラベルを付与できたのかよくわからない。

3. ブラキストン寄贈標本とケース付属ラベル

前章において、学名ラベルに記載されている学名の傾向から、ラベルは 1879 年ごろ、標本を寄贈したブラキストンによって付与されたものであるという推測を示した。本章では、この推測を別の視点から考察することとしたい。

旧稿（加藤 2012, 2013）で示したように、ブラキストンによる標本寄贈は 1879 年の一度だけではなく、1883 年にブラキストンが離日するまでの間に、標本の入れ替えが行われていた。入れ替えの結果、一時的に当初寄贈された 1,314 点を超える標本が博物館に保管されていたこともあったが、最終的には当初寄贈点数と同じ 1,314 点が日本に残されることになった。ただし、ここで留意しなければならないのは、1879 年に寄贈された 1,314 点と最終的に残された 1,314 点とはその内容が異なっているという点である。北大植物園・博物館に所蔵されているブラキストン採集標本には 1880 年以降の採集標本が多数含まれており、この点からも標本の入れ替えが行われていたことが確認されるが、ブラキストン自身もシマフクロウの標本を博物館から取り戻し、イギリスに持ち帰ったことで新種として記載されることになったということを記している（Blakiston 1884）。ブラキストンのノートによれば、ブラキストンが採集したシマフクロウ標本は現在ロンドン自然史博物館トリング分館に保管されているタイプ標本（BM1884.01.23.001）1 点のみであり、日本には残されていない。しかしながら、上述したようにブラキストン製作とされる標本ケースにはシマフクロウを示す学名ラベル（1-265）が付属している。このことは、前章で推測したように学名ラベルがブラキストンの最初の寄贈である 1879 年の時点で付与されたものであり、少なくとも 1883 年の最終寄贈の実態を示しているものではないことを示している。ここでは、ブラキストンのノートを用いて、ブラキストンが 1879 年に寄贈した当初の 1,314 点と 1883 年に最終的に残した 1,314 点の標本の種構成を整理し、標本ケースの情報とを比較することで、学名ラベルの作成・利用年代を絞り込む材料を提示したい。

ブラキストンは採集、登録した順に標本を管理していたランニングカタログと、分類研究や標本整理を目的としたノートを使い分けていた（加藤 2013）。ここで利用するのは後者である。このノートは、各種の標本を種ごとにブラキストンの管理番号を記載したもので、「BJ1882」の当該種の記述を切り抜いたものを後に貼り付けている。各標本の番号の脇には標本を寄贈した人物名、寄贈日などが記載されているが、函館博物館に寄贈したものについては、朱書きで函館博物館番号が記載されている（写真 10）。函館博物館番号は、種ごとに連番で記載されている場合が多いが、記載されている番号が抹消されている場合や、連番になっていない場合が散見される。これは、1879 年の寄贈時には種ごとに寄贈標本を選定し、函館博物館番号を記載していったが、のちに寄贈を取りやめたり、新たに寄贈することになった場合に、函館博物館番号を抹消し、新たに番号を記載していったことによって生じた結果である。この記載を整理してゆくと、当初寄贈された 1,314 点の末尾はブラキストンの管理番号 2606 のシラヒゲウミスズメ（採集日は 1878 年夏）であり、その後函館博物館番号を 1354 まで増加させている。つまり、1,354 点を寄贈した後にこれらを抹消しながら最終的に 1,314 点を選定しなおしたという動きが推測できる。ただし、この選定は複数回行われていたようで、たとえばブラキストン管理番号 2744 のユリカモメは函館博物館番号 1349 を与えられた後で 1105 の番号を与えられたが、この番号も抹消され、最終的にはブラキストンが英国に持ち帰りロンドン自然史博物館に寄贈されることになっているなど、単純に取り扱うことができないことには留意する必要がある。

ブラキストンのノートの記載を整理した結果、1879 年では 267 種、1883 年では 244 種の鳥類標本が寄贈さ

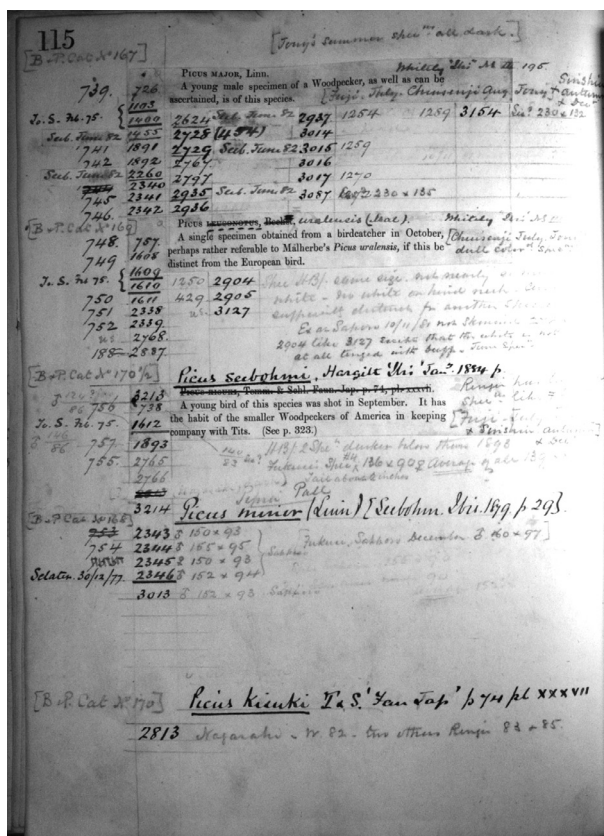


写真 10 ブラキストンのノート。4 桁のブラキストンの標本番号の脇にある 700 番台の数字は函館博物館の番号である

れていたことが判明した。学名ラベルが1879年の当初寄贈の際に製作された標本ケースに貼られていたものであれば、1879年の267種に含まれる種のラベルが確認できるはずである。逆に、当初寄贈されておらず、最終的、あるいは一時的に寄贈された種の学名ラベルが存在しているならば、学名ラベルは寄贈当初には貼られておらず、標本の出し入れ、最終的な寄贈の中で貼られたものである可能性が考えられる。この点について確認してゆきたい。

1879年と1883年の寄贈種と学名ラベルの有無を整理すると、以下のようなグループ分けが可能である。各グループに含まれる種数は、ノートに学名が「BJ1882」に基づいているのに対し、学名ラベルが「BJ1878」から「BJ1880」への移行期の記載であること、また、後述するように標本の同定も当初寄贈から変更されている場合もあるので、厳密なものではないが、傾向として示した。

- (1) 1879年寄贈あり、1883年寄贈あり、学名ラベルあり 230種
- (2) 1879年寄贈あり、1883年寄贈あり、学名ラベルなし(表2) 7種
- (3) 1879年寄贈あり、1883年寄贈なし、学名ラベルあり(表3) 27種
- (4) 1879年寄贈あり、1883年寄贈なし、学名ラベルなし(表4) 6種
- (5) 1879年寄贈なし、1883年寄贈あり、学名ラベルあり(表5) 3種
- (6) 1879年寄贈なし、1883年寄贈あり、学名ラベルなし(表6) 3種
- (7) 1879年寄贈なし、1883年寄贈なし、学名ラベルあり(表7) 5種

このうち、グループ(1)からは学名ラベルがいずれの時点で付与されたのかを明らかにすることができない。グループ(2)、(7)は、学名ラベルがブラキストンによって付与されたものであるならばありえない例であるが、これについては後述することとして、グループ(3)以降の存在から推察される点について確認する。

表2. グループ2に含まれる種

ID	BJ1882 種番号	BJ1882 学名	1879 年点数	1883 年点数	学名ラベル
1	102	<i>Limosa brevipes</i> , G.R. Gray	3	3	-
2	135	<i>Herodias intermedia</i> , Wagl.	2	1	-
3	165	<i>Cuculus himalayanus</i> , Vigors.	9	11	-
4	170_1/2	<i>Picus kisuki</i> , T. & S.	2	3	-
5	219	<i>Acredula trivirgata</i> , Temm.	2	2	-
6	225	<i>Anthus maculatus</i> , Hodg.	5	20	-
7	317	<i>Astur palumbarius</i> , L.	6	5	-

表3. グループ3に含まれる種

ID	BJ1882 種番号	BJ1882 学名	1879 年点数	1883 年点数	学名ラベル
1	006	<i>Phaleris pusilla</i> , Pall. (?)	1	0	○
2	023	<i>Anser brachyrhynchus</i> , T.	1	0	○
3	069	<i>Larus canus</i> , Linn.	2	0	○
4	079	<i>Fulmarus pacificus</i> , Lawrence = <i>P. pacifica</i> , Aud.	1	0	○
5	081	<i>Procellaria furcata</i> , Gould	1	0	○
6	109	<i>Tringa platyrhynchos</i> , Temm. (?)	1	0	○
7	111	<i>Machetes pugnax</i> , L. (?)	1	0	○
8	120	<i>Pseudoscolopax semipalmatus</i> , Jerdon (?)	1	0	○
9	126	<i>Ibis propinqua</i> , Swinh.	1	0	○
10	127	<i>Platalea major</i> , T. & S.	1	0	○
11	138	<i>Butorides macrorhynchus</i> , Gould	1	0	○
12	148	<i>Porzana pygmaea</i> , Naum. (?)	1	0	○
13	160	<i>Turtur risorius</i> , L.	1	0	○
14	183	<i>Cecropis erythropygia</i> , Sykes.	1	0	○
15	195	<i>Pica pica</i> , (?)	2	0	○
16	221	<i>Aegithalus consobrinus</i> , Swinhoe	2	0	○
17	223	<i>Accentor rubidus</i> , T. & S.	1	0	○
18	227	<i>Anthus cervinus</i> , Pall.	1	0	○
19	237	<i>Locustella fasciolata</i> , Gray	1	0	○
20	242	<i>Phylloscopus xanthodryas</i> , Swinhoe	1	0	○
21	250	<i>Larvivora cyane</i> , Pall. = <i>Erithacus cyaneus</i> , B. M. Cat.	1	0	○
22	279	<i>Plectrophanes nivalis</i> , L.	1	0	○
23	286	<i>Linota linaria</i> , Linn.	5	0	○
24	287	<i>Linota rufescens</i> , Viell. (?)	3	0	○
25	302	<i>Bubo ignavus</i> , T. Forster	1	0	○
26	319	<i>Accipiter gularis</i> , T. & S.	1	0	○
27	325	<i>Circus spilonotus</i> , Kaup.	1	0	○

表 4. グループ 4 に含まれる種

ID	BJ1882 種番号	BJ1882 学名	1879 年点数	1883 年点数	学名ラベル
1	012_3/4	Uria - (?)	1	0	-
2	068	Larus cachinnans, Pall.	1	0	-
3	157_1/2	Coturnix communis, Bonn.	1	0	-
4	179	Upupa epops, L. (?)	1	0	-
5	206	Lanius excubitor, Vig. (?) L. e. major, Pall.	1	0	-
6	228	Anthus -?	1	0	-

表 5. グループ 5 に含まれる種

ID	BJ1882 種番号	BJ1882 学名	1879 年点数	1883 年点数	学名ラベル
1	003	Mormon corniculatum, Naum.	0	2	○
2	129	Goisachius melanolophus, Raffles	0	1	○
3	121	Numenius major, T. & S.	0	1	○

表 6. グループ 6 に含まれる種

ID	BJ1882 種番号	BJ1882 学名	1879 年点数	1883 年点数	学名ラベル
1	005_1/2	Phaleris psittacula, Pall. (?)	0	1	-
2	074_1/2	Stercorarius parasiticus, L. (?)	0	1	-
3	010_1/2	Uria columba, Pall. (?)	0	3	-

表 7. グループ 7 に含まれる種

ID	BJ1882 種番号	BJ1882 学名	1879 年点数	1883 年点数	学名ラベル
1	113	Lobipes wilsonii, Lob. (?)	0	0	○
2	163	Cuculus canorus, L.	0	0	○
3	194	Corvus neglectus, Schleg.	0	0	○
4	312	Archibuteo lagopus, Gm. (?)	0	0	○
5	315	Butastur indicus, Gmel.	0	0	○

グループ (3) に含まれるシマフクロウ (3-23) など最終的に寄贈されなかった種の学名ラベルが現存していること、グループ (6) のように最終的に寄贈された種であるにもかかわらず学名ラベルが確認できないことは、ラベルがブラキストンの帰国時に付与、あるいは継続して付与されていたものではなく、1879 年の標本寄贈まもなくの時期に一度だけ作成されたことを示している。しかし、グループ (4) のように 1879 年に寄贈されたことが確認されるにもかかわらず、学名ラベルが確認できない場合や、グループ (5) のように 1879 年に寄贈されていなかったにもかかわらず、学名ラベルが確認できる場合もある。ラベルが確認できないという点については、ラベルの破損などにより現存していないという可能性も考えられるが、寄贈されていない種のラベルが存在するということは、学名ラベルの作成時期が 1879 年の当初寄贈時ではなかった可能性を考える必要があるだろう。表に含まれる種のブラキストン標本の情報を確認しながら、この点について考察することとしたい。

【グループ (4) 1879 年寄贈あり、1883 年寄贈なし、学名ラベルなし 表 4】

4-1: 種番号 012_3/4 Uria - (?) (各項目の名称、朱番号は「BJ1882」およびブラキストンノートの記載に基づいており、表 1 とは異なっている部分がある)

ブラキストンのノートにおいて、種番号 012_3/4 として管理されている標本は管理番号 1850 の個体のみである。この標本には当初 1289 の函館博物場番号が与えられたが抹消され、ロンドン自然史博物館に寄贈されている。この標本は「BJ1882」において函館博物場の標本として示されており、執筆の段階では寄贈取りやめにはなっていない。この時点で学名ラベルが作成されていたとするならば、当該種のラベルが現存していないことは疑問である。しかし、「BJ1882」で言及されているようにこの標本は幼体であり、ブラキストンのノートおよび「BJ1882」を修正した「BJ1884」(Blakiston 1884) では種番号 010_1/2 の「Uria columba」の幼体として扱いが変更されているように、種同定が困難な標本であったようである。これをふまえてノートを詳細に確認すると、種番号 010「Uria carbo」の項に抹消された標本番号 1850、函館博物場 1289 の記載が確認される。以上のことから、種番号 012_3/4 の学名ラベルが引出しに確認できない理由は、学名ラベル作成時において種番号 012_3/4 に該当する標本は認識されておらず種番号 010 に含まれていたこと、「BJ1882」執筆にあたって種番号 012_3/4 を立項したものの、この時点では学名ラベルの変更などが行われなかったこと、によるものとみられる。

4-2: 種番号 068 Larus cachinnans, Pall.

ブラキストンのノートにおいて当該種として管理されていた標本は、管理番号 1087、1903、2664 の 3 点であり、

2664に1258の函館管理番号が記載された後、抹消されている。ブラキストンは当該種について「BJ1878」、「BJ1880」いずれも函館博物館に所蔵されているとは述べていない。この理由は、ノートではすべて抹消されているものの、「Larus」という学名表記を与えた項目があり、そこに管理番号1903と2664の記載があることから、ブラキストンは「BJ1880」の時点までは自身の標本が「Larus cachinnans」に該当するものか否かの判断ができなかったのである。このため、管理番号2664は標本ケースにおいては1-026の「Larus」の学名ラベルで管理されていたものとみなされる。なお、管理番号1087は、当初ノートにおいて種番号067に記載されていた（函館博物館番号1254を抹消）ものが抹消され、種番号068の項目に移項されている。「BJ1882」において、シーボームによって当該種が「Larus cachinnans」であると同定されたことをもって記載が変更されていることから、学名ラベルは「BJ1882」の執筆以前に付与されたものとみられる。

4-3: 種番号 157_1/2 *Coturnix communis*, Bonn.

この種は「BJ1878」、「BJ1880」では立項されていないが、種番号157の「*Coturnix japonica*」において、兩種をどのように分類するか意見が分かれていることが述べられている。1-132に示した破損ラベル「■■■ Bon ■■■」が種番号157_1/2の「*Coturnix communis*, Bonn」と合致する可能性があり、かつ当該引き出しにおける種番号のまとまりを認め、ラベルが存在していたものと考えてよいのではないかと推察される。

4-4: 種番号 179 *Upupa epops*, L. (?)

ブラキストンのノートでは管理番号2125、函館博物館番号162（抹消）が当該種として記載された標本である。「BJ1880」、「BJ1882」において標本が函館博物館に所蔵されていることが示されている。1-246に示した学名、和名ラベルとも後世のラベルによって判読できなくなっているラベルが、引き出しにおける種番号のまとまりからこの種のラベルに該当するものとみなしてよいのではないかと推察される。

4-5: 種番号 206 *Lanius excubitor*, Vig. (?)、*L. e. major*, Pall.

「BJ1880」、「BJ1882」いずれにも1点のみが採集され、函館博物館に所蔵されていることが示されている。対象となる標本は管理番号1097、函館博物館番号426（抹消）である。ブラキストンのノートでは当該種を「*Lanius*」とし、「*borealis* (?)」と後筆がある。「BJ1878」、「BJ1880」いずれも「*Lanius excubitor* (?)」と学名が記されていることから評価が難しいが、1-197の「*Lanius*」のラベルがこの標本を示す学名ラベルとみなすことは可能である。

4-6: 種番号 228 *Anthus* -?

ブラキストンがこの種として把握していた標本は、管理番号2569、函館博物館番号339（抹消）である。1-213あるいは1-214とした判読できなくなっている学名・和名ラベルのいずれかが種番号のまとまりから該当する可能性がある。

以上のように、確実ではない部分もあることは認めなければならないが、グループ(4)としてまとめられた学名ラベルが確認できない1879年寄贈標本の種は、ラベルが引出しに存在していないのではなく、種の同定、認識の変化によって該当させられるラベルがない、あるいは判読できなくなっていることによるだけであり、対応する学名ラベルが存在していた可能性は高いと評価する。

【グループ(5) 1879年寄贈なし、1883年寄贈あり、学名ラベルあり 表5】

5-1: 種番号 003 *Mormon corniculatum*, Naum.

ブラキストンのノートにおいて、種番号003として管理されているものは管理番号2689と2690の2点である。前者は函館博物館番号1327を抹消して1012に、後者は1328を抹消して1027の番号が与えられている。

5-2: 種番号 129 *Goisachius melanolophus*, Raffles

ブラキストンのノートにおいて、種番号129ミゾゴイは管理番号2680と2714の2点である。前者は函館博物館番号1318を抹消して115に変更されている。後者はシーボームに送られたため函館博物館番号は記載されていない。

5-3: 種番号 121 *Numenius major*, T. & S.

「BJ1882」の種番号121は「*Numenius major*」であるが、ブラキストンのノートにおいて、種番号121は「*Numenius lineatus*」という学名が与えられている。これは「BJ1884」でシーボームとハーティン（Harting）の見解に基づいて修正されたものである。当該種の標本として管理されているものは、管理番号2713および2796である。後者はシーボームに送られているが、前者は函館博物館番号として「(674)」という記載がある。括弧書きで記載されている函館博物館番号は追加で付与された番号であり、函館博物館番号674はもともと管理番号1902の標本に与えられていた。

この種に対する評価については以下の点について慎重に取り扱う必要がある。上述したように、1879年にブラキストンが1,314点の標本を寄贈した時点での末尾の管理番号は2606であり、これ以降の管理番号を持つ標本は、基本的に1879年以降の採集標本、あるいは協力者からの受入れ標本となる。つまり、種番号121として管理されてきた標本は2713および2796という管理番号からみて1879年以降にブラキストンの手元に入ったものであり、ブラキストンはそれ以前に「N. major = N. lineatus」を保有していなかったはずである。しかしながら、「BJ1878」の「Numenius major」の項において「Hakodate specimens」という記述があり、ブラキストンは1878年以前に「N. major」を所持していたことになるのである。

ブラキストンはノートでは種番号121「N. lineatus」という学名を用いているが、「BJ1878」から「BJ1882」までは「N. major」という学名を用いている。一方、「BJ1884」とノートではシーボーム(Seeböhm 1884)の見解に基づいて、「BJ1882」まで「N. australis」と記載してきた種番号123を「N. cyanopus, = major, = australis, = tahichiensis」と修正している。つまり、「BJ1882」以前の「N. major」は種番号123に含められているのである。ノートによれば、種番号123「N. cyanopus」として管理されてきた標本は、1425、1867、1868、2091、2092、2093、2094、2762の8点である。これらの標本の位置づけについては、ブラキストンの研究協力者であるスウィンホーがブラキストンから送られた函館産標本とその情報に基づいて行った研究(Swinhoe 1876)が参考となる。スウィンホーはブラキストンから送られた標本に基づき、「N. australis」と「N. major」の2種を認め、この分類が「BJ1878」へと引き継がれてゆくことになる。スウィンホーはブラキストンの標本管理番号を示していないが、「N. australis」の計測値として雄個体の21_{3/4} × 11_{1/2}、嘴3_{5/8}および雌個体の22_{1/8} × 11_{5/8}、嘴3_{3/4}を記載している。ブラキストンのノートにも計測値の記載があり、前者は管理番号1867(雄)、後者は1868(雌)のデータと合致する。「N. major」については、標本そのものは送られなかったものの、ブラキストンから雌個体の25 × 12、嘴8の情報が送られていたようであり、この計測値はノートの管理番号1425(雌)の記載と合致するのである。このことから、5-2の「N. major」は、1879年に寄贈が行われず、1883年段階で寄贈されたものに対して学名ラベルが付与されたのではなく、1883年段階で「N. cyanopus」と扱われた標本(管理番号1425)が1879年の段階で「N. major」とみなされており、これに基づいて「N. major」の学名ラベルが付与されたものと考えるべきである。よって、5-3の事例はグループ(5)から除外される。

【グループ6 1879年寄贈なし、1883年寄贈あり、学名ラベルなし 表6】

6-1：種番号005_{1/2} *Phaleris psittacula*, Pall. (?)

ノートによれば、この種に含まれる標本は管理番号2749(函館博物館番号865)の1点のみである。この個体は1881年夏に千島列島においてスノー(H. Snow)が採集した標本である。採集年次からも明らかなように、865の函館博物館番号は1879年の寄贈時に付与されたものではない。

6-2：種番号074_{1/2} *Stercorarius parasiticus*, L. (?)

ノートでは、この種として管理された標本は管理番号2753および2754である。前者はシーボームに送られ、後者は753の函館博物館番号が与えられた後抹消され、再び753の博物館番号が記載されている。2点とも採集年次は明記されていないが、スノーが千島で採集した標本であり、前項と共通の由来を持つものと推測される。

6-3：種番号010_{1/2} *Uria columba*, Pall. (?)

ノートでは、2682、2683、2755、2795および4-1の検討で触れた1850の5点の記載がある。このうち、2795はシーボームに送られている。2755は前項同様スノー採集標本である。2682には函館博物館番号224、2683には70、2755には1284が付与されており、いずれも1879年時点の函館博物館番号ではない。

2682と2683は1850と同様に種番号010のノートにもその番号が記載され、それぞれ1320、1321の函館博物館番号が与えられた後、種番号010_{1/2}へと分類替えするために抹消されている。つまり、この2点については、当初種番号010として扱われていたものとみなす必要があり、グループ(6)の位置づけからは除外するべきものである。2755については、6-1および6-2と同様の位置づけが与えられる。

グループ(5)と(6)は、いずれも1879年では寄贈されなかった種であるが、最終的に寄贈された種である。しかし、両者には該当する学名ラベルの有無という差異が存在する。その要因の考察については後述する。

【グループ(7) 1879年寄贈なし、1883年寄贈なし、学名ラベルあり 表7】

7-1：種番号113 *Lobipes wilsonii*, Lob. (?)

当該種は「BJ1880」および「BJ1882」で函館博物館の標本となっていることが示されている。ノートでは管理

番号2699と2700の2点があり、前者はシーボームに送付され、後者は1338の函館博物館番号が抹消されたあと、202が追記され、さらに抹消されている。つまり、1879年時点および1883年時点では寄贈標本として確認されないものの、一時的には寄贈されていた標本の種であることがわかる。このことから、学名ラベルは1879年の当初寄贈の際に付与されたものではないことが示される。

7-2: 種番号163 *Cuculus canorus*, L.

カッコウ類についてはブラキストンも同定が困難であったようである。ブラキストンがノートで種番号163とした標本は管理番号1492と1693の2点のみで、いずれもスウィンホーに1875年に送付されているため、1879年、1883年の寄贈標本には当該種は含まれていない。しかし、種番号163の項において、管理番号1009、1785、など7点が当初種番号163の項目に記載されていたものの抹消され、種番号164および165へと移項されている。このうち、管理番号2348、2349が函館博物館番号782、783を有していることから、学名ラベル作成時には「*Cuculus canorus*」とみなされていたものと考えられ、この事例はグループ(7)から除外しうる。

7-3: 種番号194 *Corvus neglectus*, Schleg.

ノートにおいて当該種は管理番号2673を抹消して2701が与えられている1点のみが記載されている。この標本には函館博物館番号136が追記され、後に抹消されていることから、7-1と同様に一時的には寄贈されていた標本種であり、引出しに学名ラベルが付与されていることはその反映である。標本については「BJ1880」までは記載がなく、「BJ1882」で函館博物館の標本として、「BJ1884」でそれをイギリスに持ち帰った旨が記載されており、ノートの記載と合致する。これらの点から、学名ラベルは「BJ1880」記載以降に付与されたものであることが示唆される。

7-4: 種番号312 *Archibuteo lagopus*, Gm. (?)

ノートでは管理番号1371および2666の2点がブラキストンの所蔵標本として確認できるが、いずれも函館博物館番号の記載はなく、1879年の寄贈標本種として扱うことができない。また、「BJ1880」および「BJ1882」では当該種の2点の標本が函館博物館の標本として存在していることが記されているが、「BJ1884」で両者ともイギリスに持ち帰られたことが記載されており、1883年の寄贈標本種として扱うことができない。このため、当該種はグループ(7)として位置づけられるが、「BJ」にあるように一時的に寄贈されていたことは間違いない。それでは、なぜ寄贈されていたはずの2点の標本に函館博物館番号が記載されていないのだろうか。

ブラキストンのノートでは、1879年時点の函館博物館番号9から15までの7点の存在を確認することができない。前後の番号に該当する種は種番号310前後の猛禽類であることから、9から15までの番号を持つ標本も猛禽類であったと推測される。このことから、少なくとも1879年寄贈標本群に含まれていた可能性のある管理番号1371の標本には9から15までの函館博物館番号のうち、いずれかが付与されていたと推測される。

7-5: 種番号315 *Butastur indicus*, Gmel.

ノートの当該種に記載されている管理番号2212、2213の標本には函館博物館の番号には記載されていないため、1879年寄贈標本種として扱うことができない。前者には注記として「Iden. Seeb. Nov. 83」という記載があり、これはブラキストンが離日時を持ち帰り、シーボームに同定してもらったことを示している。また、後者については1877年にスクレイター(Sclater)に寄贈していることが記載されている。前項同様当該種は「BJ1880」および「BJ1882」において函館博物館に所蔵されていることが示されており、おそらくは管理番号2212の標本が、当初は9から15までの管理番号のいずれかを有していたと考えられる。

以上の点から、グループ(7)に含まれる種は、1879年の当初寄贈時および1883年の最終寄贈時に含まれていることは確認できないものの、一時的には寄贈されていた種であり、学名ラベルが付属していること自体には問題はないようである。ただし、学名ラベルの作成時期については、1879年の寄贈と同時に行われたのではないと考える必要がある。

【グループ(2) 1879年寄贈あり、1883年寄贈あり、学名ラベルなし 表2】

最後に、グループ(2)としてまとめた1879年、1883年いずれの時点においても寄贈が確認されるが、学名ラベルを見出しえないものについて確認をしておく。これまでの考察から、1879年に寄贈された種については学名ラベルが付属しているのが原則であることから、これらについても判読できなくなっていたり、異なる表記が利用されていることによって照合できないということになると思われる。

2-1: 種番号102 *Limosa brevipes*, G.R. Gray

ブラキストンのノートでは、当該種ソリハシチドリは1879年時点から1883年まで管理番号1651、1862、2060の

3 点が函館博物場の所蔵標本として位置づけられていたことがわかる。1-110 として示した「は中 05」（現在の棚番号 08-21）の引出しには学名ラベルが一枚も確認されないが、引出し内部の付箋には「明治十七年八月 三羽」の記載があり、3 点の標本が保存されていたことがうかがわれる。この引出しの周囲には種番号 100 前後のシギ、チドリなどの学名ラベルが確認されることから、もともとはこの引出しに 102 の学名ラベルが貼り付けられていた可能性がある。

2-2：種番号 135 *Herodias intermedia*, Wagl.

1-083 として示した「は 02」の引出しに判読できない学名ラベルが確認される。この引出しには 129 から 134、138 の種番号（ゴイサギなど）に該当する学名ラベルがあることから、種番号 135 であるチュウサギはこれに該当する可能性がある。

2-3：種番号 165 *Cuculus himalayanus*, Vigors.

当該種ツツドリは、「BJ1878」においては「*Cuculus*, sp.」とされており、1-138 として示した「*Cuculus*」の学名ラベルが対応するものとみなされる。

2-4：種番号 170 1/2 *Picus kisuki*, T. & S.

当該種コゲラは、キツツキ類の学名ラベルをもつ「ろ右 02」引出しに付属する判読できない学名ラベル（1-149）に該当するものとみなされる。

2-5：種番号 219 *Acredula trivirgata*, Temm.

当該種エナガは、亜種であるシマエナガの学名ラベルがある「ろ下右 18」引出しに含まれていておかしくないが、確認することができない。引出しには 6 種の学名ラベルが密に貼り付けられているが、後世に博物館で貼り付けたラベルの部分のみ大きな空間が残されている。確たる証拠はないが、この部分にエナガの学名ラベルが貼り付けられていたのではないだろうか。

2-6：種番号 225 *Anthus maculatus*, Hodg.

4-6 で検討した種番号 228 の「*Anthus* -?」に該当する可能性として示した 1-213 あるいは 1-214 の判読できない学名ラベルのいずれかが種番号 225 に該当するものと考えられる。

2-7：種番号 317 *Astur palumbarius*, L.

学名ラベルが付属しない引出し「ほ 04」には 5 点の標本が保存されていたことを示す付箋が付属している。当該種オオタカは 1879 年段階で 6 点、1883 年段階で 5 点の標本が所蔵されていたことがノートから確認されるため、おそらくはこの引出しに学名ラベルが付属していたものと推測される。

以上、煩雑な確認を続けてきたが、ブラキストンのノートに基づき、寄贈された標本の変化と学名ラベルとの対応を確認した結果、基本的に 1879 年に寄贈された標本の種の学名ラベルが付属していることが認められたが、5-1、5-2、7-1、7-3 の 4 種については、当初寄贈された標本の種ではない。この結果は、学名ラベルの記載が「BJ1878」から「BJ1880」への移行期に行われたと推測されることより、当初寄贈の時期に付与されたものではないかという前章での推測と合致しない。この点をふまえ、学名ラベルの作成時期について歴史的背景を整理しながら次章で考察することとする。

4. 学名ラベルの作成時期について

前章までの結果、学名ラベルは 1879 年に行われたブラキストンの標本寄贈時、あるいはそれ以降に付与されたことは確実である。同時に、1883 年のブラキストンの離日までに追加された標本種の学名ラベルの多くが確認されないこと、離日時にブラキストンが持ち帰ったことで所蔵標本がなくなった種の学名ラベルが残存していることから、最終的な寄贈の段階ではすでに更新されなくなっていたことも明らかである。この期間に学名ラベルが作成されていることは、学名ラベルがブラキストンによって作成されたものであるとみなしうる根拠となる。また、大文字の「L」が「S」のようになるブラキストンの書き癖とラベルの記載とが酷似していることもブラキストンが作成したことを示唆している。それでは、この学名ラベルはいつ、どのような目的で作成されたものであるのだろうか。標本寄贈をめぐる出来事を以下に年表にして示した。これを利用して検討することとしたい。

〔ブラキストン標本寄贈関連事項年表〕

1878年7月	「BJ1878」刊行
1879年5月	ブラキストンから函館博物館へ1,314点の標本寄贈
1880年1月	320余種、1,338点の標本を寄贈、謝礼として開拓使が三角測量図を贈呈
1880年1月	「BJ1880」を日本アジア協会で発表、刊行は6月以降か
1882年2月	「BJ1882」を日本アジア協会で発表
1883年秋	ブラキストン帰国
1884年3月	「大日本禽鳥集」完成
1884年8月	標本ケース内の標本点数確認

従来、ブラキストンが日本に残した標本の点数は、1932年に山階芳麿と北大植物園・博物館のスタッフであった犬飼哲夫、名取武光によって編集、刊行された標本目録（Yamashina et al. 1932）において確認された標本点数が1,331点であったことから、1879年の記録に基づく1,314点ではなく『開拓使事業報告』の函館仮博物館の1880年の記録にある「〔十三年〕一月函館港在留英国商「トウマスプレツキストン」鳥獣剥製三百貳拾餘種其數壹千三百三拾八羽ヲ寄贈す初メ「プレツキストン」本使二等屬福士成豊等トカヲ合セ數年間山野ヲ跋涉シ蒐集セシモノニシテ實ニ無比ノ陳列品ナリ」という記述に基づいて1,338点であるとみなされてきた。しかし、旧稿で示したように、山階らの目録にはブラキストン採集標本以外の標本が多数含まれていること、また現存する標本のうち、ブラキストン標本とみなしうる標本は1,300点を下回っていること、ブラキストンのノートの精査により一時的に1,338点が寄贈されたことは認めうるものの、最終的には1,314点だけが残されたこと、本稿冒頭で紹介した開拓使の書類や当時の新聞記事から、寄贈そのものは1879年に開始されたことが確認されることに基づいて、『開拓使事業報告』の記述はそれほど意義を認められないものと考えてきた（加藤2012,2013）。しかし、現在博物館に保管されている鳥類標本を対象とするのではなく、ブラキストン製作の標本ケースに付属する学名ラベルの作成時期を検討する上では、この記事の重要性を再評価する必要があるのではないだろうか。

筆者によるこれまでの研究においては、ブラキストンの標本寄贈は1879年5月に始められ、その後標本の入替えが複数回行われた結果、1880年の段階で1,338点になっていたという推測のみで、実際に1880年時点でどの標本が寄贈されていたのかについての詳細な調査は行ってこなかった。ここで、ブラキストンのランニングカタログを確認すると、管理番号2677から2700までの標本に「HDMus. No.」として1315から1338までの函館博物館番号が連続して記載されている。管理番号2701からは136、331、114と当初寄贈標本の函館博物館番号を変更したあと、2704以降で1339以降の博物館番号と当初寄贈標本の博物館番号とが混在して記載されるようになる。このことは、最初に寄贈された1,314点の後、次の寄贈は博物館番号1315から1338までの24点が一括して寄贈され、その後に個々の標本の追加や入れ替えが始まったという流れを示している。ここでポイントとなるのは博物館番号の末尾が『開拓使事業報告』に記載された標本点数1,338点と合致することである。ブラキストンがどのように考えていたのかを明らかにする材料はないが、上述の『開拓使事業報告』の記事の続きとして「本使其篤志ヲ感シ厚意ヲ謝シ臘虎皮壹個、琥珀織壹卷、綾織壹卷ヲ贈ル固辭シテ受ケス、因テ當道三角測量圖中ニ和洋二様ノ報謝文ヲ記シテ贈ル「プレツキストン」喜テ受領ス」とあるように、1880年1月にブラキストンは開拓使からの謝意と謝礼を受け取っている。これにあたりブラキストンは当初寄贈の1,314点に24点を加えて総計1,338点としたのではないだろうか。この推測が妥当であるならば、学名ラベルの作成時期もこれに合わせて考えることができる。

5-1、5-2で示したように、1879年当初寄贈の標本に含まれていなかった種番号003Mormon corniculatum および129Goisachius melanolophusの2種の学名ラベルが標本ケースの引出しに確認することができる。また、7-1の種番号113Lobipes wilsoniiも同様である。当初寄贈されていなかった種のうち、学名ラベルを確認することができる種の標本に共通する点として、これらに付属していた函館博物館番号が1327、1328、1318、1338という、1880年1月時点での寄贈標本点数である1,338点に含まれているということが挙げられる。この事実は、標本ケースの学名ラベルは当初寄贈時に貼られたのではなく、開拓使からの謝意、謝礼を受け取るというブラキストンにとってのひとつの区切りとして、1880年1月の時点で寄贈されていた標本に対して作成されたということを示している。つまり、開拓使によって「無比ノ陳列品」と評されたのは、1880年1月までに行われた2度目の寄贈までの1,338点の標本と、標本ケース、2度目の寄贈標本を含めた所蔵標本を示す学名ラベルであったのである。

ただし、学名ラベルの作成を1880年1月として確定するためには、次の点について留意が必要である。1,338点の標本が寄贈され、謝礼を受け取った同月にブラキストンは「BJ1880」を日本アジア協会で発表している。学名ラ

ベルの一部が「BJ1880」ではなく、「BJ1878」に依拠していることから、ラベルの作成は「BJ1880」の完成以前、執筆のための検討作業と並行して行われた可能性が高い。あるいは、「BJ1880」の刊行そのものは1月ではなく6月以降に行われたことから、学名ラベルそのものは1月までに作成され、それと日本アジア協会での発表段階で用いていた学名は共通であったが、「BJ1880」刊行段階で学名に修正が加えられたという考え方も可能である。

学名ラベルの作成時期については、もう1点検討しておくべき点がある。7-3で触れた種番号194 *Corvus neglectus* も1879年の寄贈標本種に含まれていないが、学名ラベルが引出しに貼られている。当該種として寄贈された標本は、ブラキストンの管理番号2701、函館博物館番号136を持つものであり、上述した1880年1月までに寄贈された標本群とは異なる特徴を持つものである。この点については、以下に示すいくつかの可能性を提示することができる。

(1) 寄贈された「*Corvus neglectus*」の管理番号は2701であるが、ノートでは「2673」を抹消したうえで「2701」と修正されている。この修正は管理番号2706までの6点に対して行われており、これらの管理番号が重複して用いられたことが推測される。2673という管理番号は、当初寄贈された1,314点ののちに追加された函館博物館番号1315から1338までの標本である管理番号2677から2700の標本群よりも古い時期にブラキストンの管理下に入ったことを示しており、この標本が1880年1月までに博物館に寄贈されていた可能性は残される。

(2) 1880年1月に寄贈されていた1,338点の標本の管理番号末尾は上述したように「2700」である。1月の寄贈に関する謝礼が行われたあともブラキストンは函館博物館番号を1354まで増加させており、管理番号「2701」とされたこの標本も続いて寄贈することになったため、新たな種として学名ラベルを付与したとも考えられる。ただし、なぜこの標本に対して函館博物館番号「1339」を付与しなかったのかという疑問も残り、この説の蓋然性は低い。

(3) 管理番号「2701」の「*Corvus neglectus*」の函館博物館番号が1338から継続するものではなく「136」が与えられていることがもうひとつの考え方の材料である。この「136」は1879年の当初寄贈の際に与えられたものではなく、もともとは管理番号2510のショウドウツバメに与えられていた番号である。ブラキストンが寄贈標本を複数回入れ替えていたことについてはこれまでも述べてきたが、ブラキストンは日本滞在中標本管理の権限を手放していなかったことから、寄贈した標本であっても手元にあることと大きな違いはなく、自分のために寄贈を取りやめなければならなかったのは離日の時点のみであったはずである。日本滞在中に寄贈を取りやめなければならなくなった理由は、研究・収集協力者に標本を提供する必要性が生じた場合であると考えられる。ここで、ブラキストンのノートから標本寄贈先、寄贈時期について確認することとしたい。

ブラキストンが函館博物館に標本を寄贈した1879年以前には、1862年、1872年から76年にかけてスウィンホーへ寄贈している例が多い。そのほか1876年に東京方面の採集協力者であった織田、1877年から79年3月までの間には横浜のプライヤー、長崎のリンガーやイギリスの研究者のスケレイター、シーボームへの寄贈が行われている。79年5月の函館博物館への寄贈の後にはこれらの標本交換は行われなくなっている。これは、ブラキストンが函館博物館に標本を寄贈したという認識でいたことによるものと思われる。標本寄贈後に再び行われた標本交換は81年5月末、あるいは6月1日に織田、プライヤーに送られたものが最初であり、翌年からはシーボームやアメリカの博物館の採集者として来日したジュイ (P. L. Jouy)、横浜の標本ディーラーであったオーストン (A. Owston) に送られている。1879年の最初の寄贈時に「136」の函館博物館番号が与えられていた管理番号2510のショウドウツバメは81年5月に織田に送付されたことがノートに記されており⁽⁵⁾、函館博物館から持ち出された最初の標本であるとみなされる。ノートではこの標本の脇に「This Mus No gave to *Corvus neglectus*」という記述もあり、函館博物館番号が切り替えられたことが明記されているが、他の標本にはこのような記述は見受けられないことからみて、標本の入れ替えという行為のきっかけとなった標本であったとみてよいのではないか。このような背景により「*Corvus neglectus*」の学名ラベルが追加されたと考えることもできる。

以上、例外的な取り扱いとなる種番号194 *Corvus neglectus* は別として、学名ラベルのほぼすべては1880年1月前後に作成されたものであると考えたい。

従来不透明であったブラキストンによる標本寄贈の流れを確認しながら、標本ケースに付属する学名ラベルの作成年代を考察してきた。それでは、ケースに付属するもうひとつのラベルである和名ラベルの作成はいつごろ行われたのだろうか。和名ラベルが「BJ1880」の記載のみに依拠していることから、作成時期の上限は「BJ1880」がアジア協会で発表された1880年1月以降に限定される。しかしながら、1881年6月に追加された種番号194 *Corvus neglectus* の学名ラベルの脇に対応する和名ラベルが存在していることから、作成の上限はさらに引き下げられることになり、80年1月の「無比ノ陳列品」と評された時点では付属していなかったことは明らかである。ラベルの情報からは、これ以上の情報を見出すことができないので、想定されるいくつかの可能性を想定しつつ考察してみたい。

まず、和名ラベルがブラキストンの滞在期間中である1881年6月から83年秋までの間に作成されたかどうかについて検討してみたい。この期間に函館博物館の職員が和名ラベルを作成とした場合、標本管理の権利をブラキストンが保持していたことから、博物館の職員だけでは実施することはできなかったはずであり、当然ブラキストンとの交渉が必要であつたであろうし、協力が得られたであろう。しかしながら、ブラキストンが和名ラベルの作成にも関与していたのであれば、「BJ1878」に依拠した学名ラベルに対応する「BJ1880」の項目も明確にすることができていたのではないかと推察される。和名ラベルが「BJ1878」の学名ラベルに対応できていないことからみて、ブラキストン滞在時期に和名ラベルが作成された、少なくともブラキストンの協力を得ていたと考えることは難しく、この仮定は受け入れがたい。

和名ラベルが「BJ1880」に依拠していることから、和名ラベルの作成時期はその改訂版である「BJ1882」が刊行された1882年後半ごろまでに絞り込むことができるかもしれない。函館博物館関連史料を所蔵する函館市中央図書館にはブラキストン自身の書き込みとみられる注記がある「BJ1882」が現存するので、刊行直後に入手できなかったとしてもブラキストンが離日する1883年ごろには利用できるようになっていたはずである。しかし、この時期も先に挙げた仮定と同様にブラキストンの滞在時期であることから、ブラキストンの協力をうかがうことができない状況では、首肯しづらい考え方である。なお、函館博物館において「BJ1880」がいつまで利用され、「BJ1882」がいつから利用されるようになったかについては、野口源之助によって1884年3月に翻訳された「大日本禽鳥集」が「BJ1880」を翻訳したものであることから、博物館周辺ではかなり遅い時期まで「BJ1880」が利用されていた可能性が高く、「BJ1880」の利用のみをもって和名ラベルが1882年以前に作成されたと断定することはできない。

和名ラベルの作成時期の下限は、1884年3月に編纂された「大日本禽鳥集」によって示しうるかもしれない。既述したように「大日本禽鳥集」は函館博物館周辺で作成され、保管されてきた史料である。翻訳者である野口が函館県の職員であったことから、翻訳目的はブラキストン標本、函館博物館と無関係であったとは考えられず、和名ラベルの作成時点で「大日本禽鳥集」が存在していれば函館博物館は利用していたはずである。和名ラベルの作成者が「大日本禽鳥集」を閲覧していれば「BJ1880」で和名が記載されていなかった種であっても、フルマカモメやハイロウミツバメなどの和名を記載できていたはずである。しかし、「大日本禽鳥集」を利用していた形跡がないことからみて、和名ラベルの作成は1884年3月以前と考えられる。

明確な史実を明らかにすることは現時点で不可能であるが、上述した様々な可能性から類推すると、和名ラベルはブラキストンが日本を離れた1883年秋以降、「大日本禽鳥集」が完成した1884年3月以前に作成されたと考えることが最も適切であると考えられる。この時期にはすでに標本ケースに保管されていなかったシマフクロウなどの和名ラベルを作成していることには違和感を覚えるが、旧稿で示したように、当時の函館博物館のスタッフはブラキストンの寄贈標本を個々に管理・把握していたのではなく、1890年代に至るまで、一括で1,314点とみなしていた形跡がある（加藤2012）。このような管理体制であれば、標本ケースにシマフクロウがあつたかどうかを判断することなく、ブラキストンが付与した学名ラベルを手元にあつた「BJ1880」を利用して和訳したと考えることは不可能ではなからう。しかし、和名ラベルがブラキストンの離日後に、函館博物館によってブラキストンの学名ラベルを翻訳するだけの形で作成されたとするならば、たとえ標本の同定ができなかったとしても、次のような問題が生じたに違いない。

標本ケースの引出しの内側には、「十七年八月」という日付とともに「三拾八羽」などの標本点数を示す付箋が貼られている（点数は表1「引出内付箋」欄に記載）。付箋が破損していたり、欠落した可能性のある引出しも存在するが、引出し「は左05」（1-108、109）、「ろ中01」（1-136）、「ろ右06」（1-171、172）には付箋が確認できない。これらの引出しに付箋が存在しない理由は、引出しに付属する学名ラベルの種の標本が、1879年の寄贈時には引出しに保管されていたものの、1883年のブラキストンの離日時に引出し内の標本がすべて持ち帰られたことで引出しが空になっていたためである。標本点数が確認された（明治）十七年（＝1884年）の時点でなくとも、引出しの外にあるラベルの標本が存在していないという矛盾には容易に気づくことができたはずであり、学名ラベルや和名ラベルが利用できないものであるという状況が認識されたのではないだろうか。あくまでも推測ではあるが、この問題点を解決するために「大日本禽鳥集」の翻訳が行われ、また実際の標本点数の確認作業が実施されたという流れが想定される。また、この作業の中で現存するいくつかの標本に付属する種番号が記載された和紙のラベル（写真11、



写真11. 標本付属の種番号和紙ラベル

ラベルについては加藤（2012）を参照されたい）も付与されたのかもしれない。

まとめ

ここまで、ブラキストンが製作させたといわれる標本ケースについて、付属するラベルを中心に検討をすすめてきた。学名ラベル、和名ラベルがいつ、どのような目的で作成されたのかについては、明確な結論を提示することができなかったが、学名ラベルはブラキストンによって付与されたものであることは間違いなく、標本ケースもブラキストンが関与して製作されたものであることは明らかである。また、ブラキストンの寄贈標本の全体像とケースに付属する学名ラベルとの間には大きな差異がないことから、ブラキストンが製作させた「陳列箱」は現状の5台のケースであったということも確認された。検討結果そのものは従来引き継がれてきた事柄を追認するにとどまったが、少なくともブラキストンの標本ケースがどのようなものであるのかを紹介するという目的、また今後このケースをさまざまな形で利用するにあたって、資料としての価値に疑いがないということを明確にしえたことを一応の成果として、本稿を終えることとする。

本稿執筆にあたり、長年にわたって収蔵庫および標本の維持管理にあたってきた植物園・博物館の市川秀雄技術室長からは、さまざまな情報を提供していただいた。記して謝意を表したい。

引用・関連文献

- Blakiston T. 1884 : Amended List of the Birds of Japan According to Geographical Distribution, Taylor and Francis, London, 68pp
- Blakiston T. and Pryer H. 1878 : A Catalogue of the Birds of Japan , Ibis , ser.4, v2 (7) , 209-250
- Blakiston T. and Pryer H. 1880 : Catalogue of the Birds of Japan , Transactions of the Asiatic Society of Japan , 8, 172-241
- Blakiston T. and Pryer H. 1882 : Birds of Japan, Transactions of the Asiatic Society of Japan, 10, 84-186
- 加藤 克 . 2012 : ブラキストン「標本」史, 北海道大学出版会, 札幌, 348pp
- 加藤 克 . 2013 : ブラキストンの鳥類標本ノートについて, 北大植物園研究紀要 , 13, 35-47
- 北島 佐一郎 . 1985 : ブラキストンについて, こくがん (日本野鳥の会函館支部創立 5 周年記念誌) , 10-22
- Seebohm H. 1879 : Remarks on Messrs. Blakiston and Pryer's Catalogue of the Birds of Japan, Ibis , ser.4, v3 (9) , 18-43
- Seebohm H. 1884 : Further Contributions to the Ornithology of Japan, Ibis , ser.5, v2 (5) , 30-43
- 関 秀志・中田 幹雄・千代肇 . 1990 : 明治期における北海道の博物館 (2) , 北海道開拓記念館調査報告 , 30, 91-118
- Swinhoe R. 1871 : A Revised Catalogue of the Birds of China and its Islands, with Descriptions of New Species, References to former Notes, and occasional Remarks, Proceedings of the Zoological Society of London, 337-423
- Swinhoe R. 1876 : On the Contents of a third Box of Birds from Hakodadi, in Northern Japan, Ibis , ser.3, v6 (13) , 330-336
- Yamashina Y., Inukai T. and Natori B. 1932 : A list of birds' skins presented by Captain Blakiston, Transactions of the Sapporo Natural History Society, 12 (4) , 213-255
- 彌永 芳子 . 1979 : トーマス・W・ブラキストン伝, トーマス W. ブラキストン, 近藤唯一 (訳) . 蝦夷地の中の日本, 付録, 八木書店, 東京, 445-617

-
- (1) 現在の正式名称は北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園。
- (2) 北海道立文書館所蔵簿書 4082「明治十二年ヨリ十三年マデ 函館博物場書類」。
- (3) ブラキストンの種番号は「BJ1880」で確定し、それ以降の版において新たな種が追加された場合には種番号+「1/2」、さらに追加される場合は「1/4」、「3/4」という形で追記されている。本稿では桁数をそろえる目的で朱番号は3桁で表記し、追加種番号については「012_1/2」という形で示すこととする。
- (4) 函館市中央図書館資料番号 1810646602。
- (5) ただし、管理番号 2510 のショウドウツバメは函館博物場番号 134 として現在も博物館に所蔵されている (HUNHM03052)。これは、もともと函館博物場番号 134 を有していた管理番号 2508 のショウドウツバメが現存していないことから、博物場番号ラベルの付け替えの際に混乱が生じたものと推測される。